

## (2) 学校設定科目「地域防災」

### ア 目的

- ・ 災害に関する基本的な知識を身に付け、災害に対応できる力を養成する。
- ・ 主体的・協働的に課題を発見し解決する過程を通して、自己肯定感を育み、地域貢献できる人材を育成する。

### イ 対象生徒

2 学年 107 名

### ウ 活動の概要

#### a フィールドワーク

日 程：令和3年7月14日（水）

行き先：神奈川県総合防災センター

目 的：災害の危険性や災害時の本部体制等の仕組みを体験的に学び、自助・共助の視点で日ごろからどのように備えることができるのか、また災害時にどのように行動できるのかを考える。

<地震体験・風体験等、シアター視聴と展示物見学等、施設見学等を各グループローテーションで順次見学した。>

#### ① 地震体験・風体験等

地震体験では、最大震度7までの地震（関東大震災、兵庫県南部地震、東北地方太平洋沖地震など）を、CG映像を見ながら体験した。風水害体験では、風速毎秒30メートルの強風を体験した。震度7の地震や、風水害を実際に体験した生徒は多くはないので、生徒たちからは「足の震えが残るほど揺れて支え無しでは耐えられないほど強かった」や「しっかりと手すりにつかまっても体がとても揺れて、何も無いところだとどうしようと不安になった」などという声があがり、日頃から災害が起きた時にどのように行動するべきなのかを考える機会となった。



(地震体験)



(風水害体験)

#### ② シアター視聴と展示物見学等

シアターでは津波や火山災害、風水害の危険性や、いざという時の備えについて学習した。展示物見学等では、消防用具の歴史や、災害時や避難所で使用する段ボールベッドやパーテーションなどの実物を見学し、災害が発生した後や、避難所での生活について想像することができた。



(展示物見学)

#### ③ 施設見学等

施設見学等では、災害救助訓練場・備蓄倉庫・本部体制を見学させていただいた。災害救助訓練場では、あらゆる災害を想定して日ごろから訓練している職員の訓練場を見学させていただき、そこでの訓練の様子などをお話していただいた。また、備蓄倉庫では、神奈川県全域の備蓄倉庫ともなっている広大な倉庫を見せていただいた。本部体制では、フィールドワークを見学させていただいたこの日に、午後から避難訓練を実施するという事で特別に本部の様子も見学させていただいた。普段なら見学できないようなところも特別に見学させていただき、生徒自身も災害が起きた時に、守る立場としてどのようなことができるのかを模索する良い機会となった。



(災害救助訓練場見学)



(備蓄倉庫)



(防火服試着)

b 災害知識講義

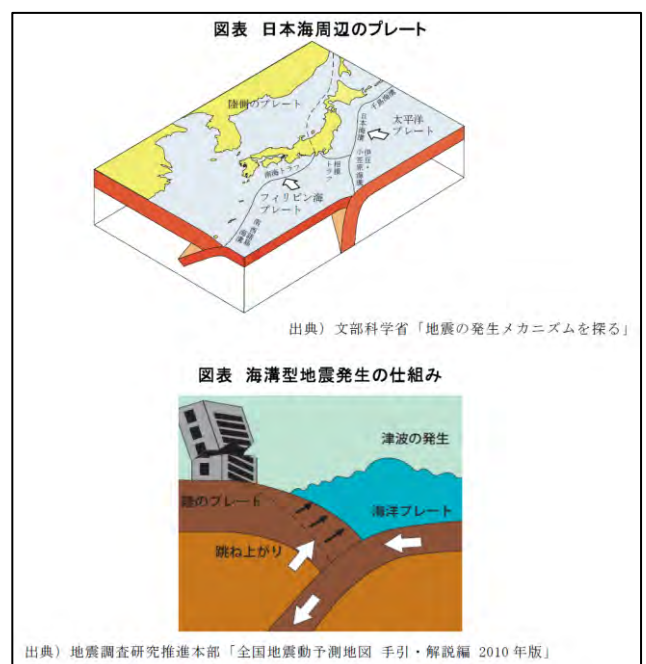
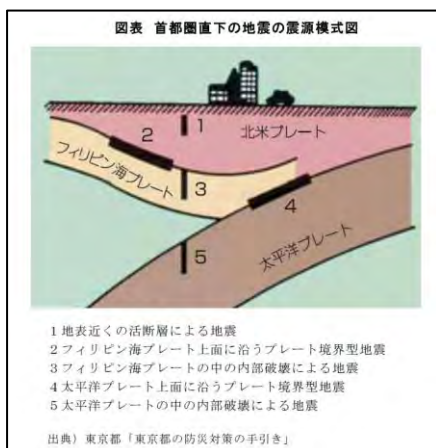
災害知識講義では、地域防災を担当している7人の本校教員が「地震」「津波」「台風」「雪害・火山」「土砂災害」「災害の備え」についてそれぞれ講義をした。

① 地震

最初に地震が起こるメカニズムを学び、どうして日本が地震王国と呼ばれるほど地震が多いかを理解させるところから始め、ニュースで流れるマグネチュードと震度との違いを説明し、それぞれの基礎的知識を身につけさせた。

生徒たちはその後、地元の神奈川県西地区での過去の大きな地震の歴史を学び、実際に巨大地震が身近な存在であることを理解することができた。

最後に、実際の巨大地震に遭遇したときに必要な防災グッズを、どのように使用し、役立てるかを説明とともに学び、地震に対する防災意識を高めた。



## マグニチュードと震度の違いは？

「マグニチュード」は、地震そのものの大きさ(規模)を表すものさしです。一方「震度」は、ある大きさの地震が起きた時のわたしたちが生活している場所での揺れの強さのことを表します。

マグニチュードと震度の関係は、例えば、マグニチュードの小さい地震でも震源からの距離が近いと地面は大きく揺れ、「震度」は大きくなります。また、マグニチュードの大きい地震でも震源からの距離が遠いと地面はあまり揺れなく、「震度」は小さくなります。

マグニチュードは1増えると地震のエネルギーが3.2倍になります。マグニチュード8の地震は、マグニチュード7の地震の3.2個分のエネルギーを持っていることになります

震度1 屋内で静かにしている人の中には揺れをわずかに感じる

震度2 屋内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。

震度3 屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。

震度4 ほとんどの人が驚く。電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。座りの悪い置物が倒れることがある。

震度5 弱大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。棚にある食器類や本が落ちることがある。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

震度5 強物につかまらなると歩くことが難しい。棚にある食器類や本で落ちる物が多くなる。固定していない家具が倒れることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。

震度6 弱立っていることが困難になる。固定していない家具の大半が移動し、倒れる物もある。ドアが開かなくなることがある。壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。耐震性の低い木造建物は瓦が落下したり建物が傾いたりすることがある。倒れることもある。

震度6 強はわなないと動くことができない。飛ばされることもある。固定していない家具のほとんどが移動し、倒れる物が多くなる。耐震性の低い木造建物は、傾く物や倒れる物が多くなる。大きな地割れが生じたり、大規模な地滑りや山体の崩壊が発生することがある。

震度7 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。耐震性の高い木造建物でもまれに傾くことがある。耐震性の低い鉄筋コンクリート造りの建物では倒れるものも多くある。

### ○小田原の大きな地震

**小田原地震**（おだわらじしん）は、神奈川県西部の小田原市周辺で発生する地震である。フィリピン海プレートの一部にあたる伊豆半島と、日本列島のプレートとが衝突して沈み込めないため、小田原市周辺では地震が発生しやすいと考えられている。過去に数回発生しており、再来周期はほぼ73年である<sup>2</sup>。小田原市周辺で過去に発生した主な地震としては、寛永小田原地震（1633年）、慶安小田原地震（1648年）、天明小田原地震（1782年）、嘉永小田原地震（1853年）などがあげられる。1645年（正保2年）、1647年（正保4年）、1870年（明治3年）にも発生したとされてるが、いずれも小被害である。さらにこれらの地震に、相模トラフ沿いで発生した元禄地震（1703年）および関東地震（1923年）を加えると、平均で70年程度の周期で地震が起きていることになる<sup>1</sup>。本記事では、江戸時代の地震に於いては発生時の元号を冠し区別している。

### 寛永小田原地震

寛永10年1月21日(1633年3月1日)に発生。マグニチュード7.1-7.2<sup>[1]</sup>(7.0とも)。小田原で最も強く揺れ、小田原城矢倉、門塀などに被害が出た。民家倒壊も多く、150人が圧死により死亡。箱根で山崩れが起こる。海に近い熱海や網代で津波の被害が出た<sup>[2]</sup>。

### 慶安小田原地震

慶安元年4月22日(1648年6月13日)に発生。マグニチュードは7.0程度。小田原城破損。死者1人。箱根で落石。領内で潰家が多かった<sup>[3]</sup>。

### 天明小田原地震

天明2年7月15日(1782年8月23日)<sup>[4]</sup>。マグニチュード7.0程度(7.3<sup>[2]</sup>とも)。月初めより前震あり、被害は大きく、小田原城の櫓、石垣に被害が出る<sup>[5]</sup>。民家は約一千戸が倒壊し、江戸でも死者。箱根山、大山、富士山で山崩れが発生した。熱海で津波が有ったとの記録がある<sup>[6]</sup>。なお、宇佐美龍夫(1984)らは震源は足柄平野にあり小田原地震には該当しないとの見解もある<sup>[10]</sup>。一方、都司嘉宣は震源域は海底下まで伸びていたとしている<sup>[9]</sup>。

### 嘉永小田原地震

6年2月2日(1853年3月11日)。マグニチュード6.7程度。推定されている各地の震度は、6から7が小田原(特に東南部)・塚原・金子、6が布川・中沼・関本・山田・矢倉沢・最乗寺・高尾、5強から6が川村・中日向・巢雲川・仙石原<sup>[14]</sup>で、江戸でも震度4から5程度の揺れであったとみられている。本震は午前10時過ぎ頃に発生し、10分から15分の間に2度の地震が起こったと考えられている。本震後も余震が続いたが翌日夕方4時頃に最大余震があり、さらに被害が出た。

### 関東大震災

最も強く揺れた小田原では、天守の瓦や壁が落ち、小田原城三の丸の藩校集成館が倒壊した。全壊した家は1,032戸、半壊した家は2,477戸、被害が出た家は544戸。死者も24人出た。箱根、根府川関所にも被害が出た。箱根など341か所で山崩れが起こり、真鶴(真鶴町)にも被害を与えた。真鶴湊では津波による引き波がみられたが被害はなかった。江戸城でも大手門の渡櫓内の壁がすべて落ちた<sup>[15]</sup>。東海道は道路や関所などが被災したため1週間ほど通行不能となった<sup>[19]</sup>。

震度7小田原 塚原 金子 震度6布川 中沼 関本 山田 矢倉沢 最乗寺 高尾

震度5川村 中日向 巢雲川 仙石原

神奈川県西部を震源とするマグニチュード7.9。東京で観測した最大振幅は14~20cm。地震後火災が発生し被害を大きくした。全体で死者・行方不明者10万5千人余り。住家全壊10万9千棟余り、半壊10万2千棟余り。焼失21万2千棟余り(全半壊後の焼失を含む)。山崩れ・崖崩れが多い。房総方面・神奈川県南部は隆起し、東京付近以西・神奈川県北方は沈下した。相模湾の海底は小田原一布良(館山)線以北は隆起、南は沈下した。関東沿岸に津波が襲来し、波高は熱海で12m、相浜(館山)で9.3mなど。

現在の県西地区想定地震

都心南部直下地震 三浦半島断層群地震 神奈川県西部地震

東海地震 南海巨大地 大正型関東地震

## 地震7つグッズ

### 1. 缶詰食・ペットボトル水

震災後は水・電気・ガスなどのライフラインが止まり、発生から数時間たつと水や食料の姿がスーパーやコンビニからなくなることも。先日6月19日朝に発生した大阪北部を中心とする地震でも、昼ごろにはコンビニからおにぎりが消え、カフェやレストランは休業のところが多く見られました。

大規模な災害の場合、**災害発生から3日間**は、支援の手も届きにくいので、なんとか自助努力で水と食料は確保したいところです。例えば、夫婦2人・乳児1人・子ども1人・高齢者1人の5人家族の場合では、災害後3日間に必要な水は45L、食料としてアルファ化米、レトルトご飯など45食分が必要とされています。

このほかにも鶏肉や魚、果物などの缶詰があると栄養バランスが取れるのでおすすめ。

仕事や家事、育児で忙しい方は重たい水などを中心に**ネット通販で買うと自宅まで届けてくれる**のでとても便利です。

### 2. 簡易トイレ

緊急時のトイレ、困りますよね。道路が渋滞し電車が止まるなど交通への影響が大きい場合、トイレが近くにあるとは限りません。小さいお子さんがいるとなおさら困りもの。

さらに、水道や電気が止まってしまうと、排せつ物を流す水も利用することができなくなります。避難先では不特定多数の人が利用するため絶対数が少なくなりがちで、不衛生になることも少なくないのが現実です。

そんな時、簡易トイレを持っていれば、いざというときに排せつ物を衛生的に処理することができるのでとても重宝します。防災・減災グッズというと、どうしても食べ物や飲み物、医療道具などに目が行きがちですが、**衛生的に生きていくためのトイレにも気を配りたい**ものです。かさばりませんし軽いので、普段利用するカバンや車に忍ばせておくことをおすすめします。

### 3. 手まわし充電ラジオ

災害時に「**情報が手に入らない**」のは、死活問題。音声のため複数人でも利用が可能なため手まわし充電可能なラジオはおすすめです。災害後は安全な場所でラジオで情報を収集しながら状況把握につとめましょう。シニアや子供でも使いやすく、手回し充電も可能。ライトつきのものも多いため、一家に一台あると便利な道具です。

### 4. ソーラーつき充電器

最近ではスマホでTwitterをはじめとしたSNSやWebから情報を取得することも多く、スマホの充電器が必需品になっています。しかし、既存のモバイルバッテリーの多くは家庭用コンセントから充電を行うタイプが主流。それでは電気が止まったときには困ってしまいます。

そこでおすすめなのは、ソーラーパネル付きの充電器。普通の家庭用コンセント充電以外に、太陽の光でも蓄電可能なため、**電気がストップしてしまった状況や、避難先で電源供給が制限・不安定な場所**でも充電が可能です。

### 5. 保温アルミシート

朝晩冷え込む季節は体温調整が難しいことも。とくに精神的な疲れや、避難によるライフスタイルの変化などで無意識に体調を崩しやすい状態が続きます。お子さんやシニアの方を中心に、特に体調を崩しやすい方は「**身体を冷やさない**」ことが重要です。

災害時に利用する保温用アルミシートは「サバイバルシート」ともよばれており、体にまとうことで雨風をしのぎ、暖かい空気をシート外に逃さないよう利用します。サイズも小さく軽いため、簡易トイレ同様、普段持ち運ぶバックの中に忍ばせておくのもおすすめです。

### 6. 食品用ラップ

食品用ラップは災害時に大活躍のすぐれもの。出欠箇所直接当てて止血するときにも利用可能ですし、断水時に洗い物を少なくするために、避難所ではお皿の上において食事に利用することもしばしば。幅の広いラップが比較的便利ですが、防災リュックに入りづらい場合は、横幅がやや狭いものでもOKです。意外と利用シーンが多いため、何か用意しておくとう安心です。

## 7. ウェットティッシュ

災害時は砂やほこりも立ちやすく、顔や体が汚れやすい状況が続きます。ガス・水・電気などライフラインがストップした状態が続くと、手洗いうがいや洗髪などが難しくなり、衛生面も気になるためウェットティッシュを利用して最低限除菌をしましょう。

最低限身だしなみをきれいにしておくことで、心理的にも少し元気になるためウェットティッシュを利用して最低限除菌をしましょう。スーパーやネット通販で購入する際には、大きさよりも枚数が多いものの方が実用的です。間違っても詰め替え用だけ購入しないよう注意しましょう。

### <防災・減災グッズはどこにどうやって置くのがおすすめ？>

ここまで防災・減災グッズを紹介してきましたが「どこにどうやって置くべきか？」という質問もよくうけるためご紹介しておきます。

防災・減災グッズは、「背負いやすいリュック」に入れて

・玄関先

・寝室

のいずれかに置くのがおすすめです。

## ② 津波

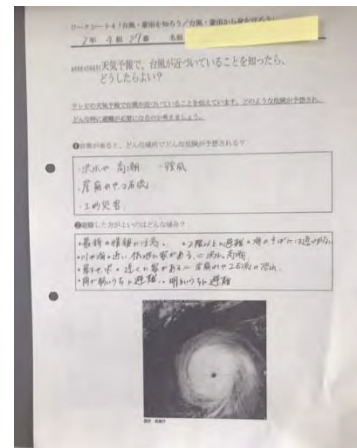
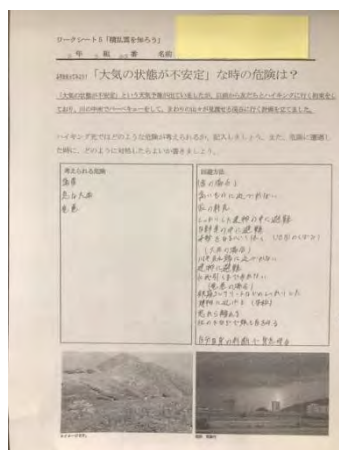
津波が起きた際の「命を守る行動」について学んだ。この授業では釜石市の津波の事例と、石巻市立大川少学校の事例の映像を視聴し、2つの事例についてどのような違いがあったのか考えさせた。そこから、生徒たちは何も無い通常時どのような対策ができるのか考え、それを生徒同士で検証しあった。

授業内で使用したワークシート



## ③ 台風

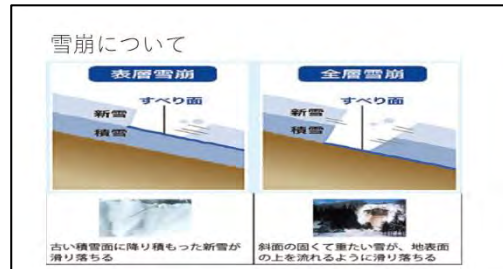
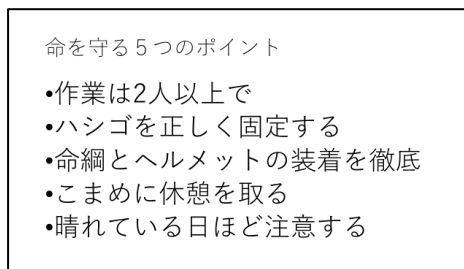
台風・豪雨の仕組みを生徒たちは動画から学び、天気予報でどのように情報が伝えられているか確認をした。また、重要な考え方に焦点を当てるためにワークシートにキーポイントを書き出し、危険な場所の確認、避難のタイミングや情報の的確な掴み方を学んだ。危険に遭遇した際の対処方も書き出すことによって整理した。普段、何気なく見ている天気予報から「積乱雲」や「大気の状態が不安定」のようなキーワードを聞いた際には外出は控えるなどの危険回避の知識を持つことができた。



④ 雪害・火山災害

雪害は、除雪中の事故や雪崩などの豪雪地帯特有の災害や、路面凍結による交通事故や歩行者の転倒などの豪雪地帯以外においても起こる災害もある。それほど雪の降らない地域に住む生徒たちにとってはあまりイメージの沸きにくい單元ではあるが、観光等で豪雪地帯に行ったり、住んでいる地域に突然大雪が降ったりしたときに、雪に対する正しい知識を身に付けておくことは重要であると考え、ワークシートやスライドを用いて授業を展開した。

【授業時に使用したスライド】



火山災害では、かなチャンTVの「映像で災害を体験しよう（火山編）」で箱根山大涌谷の噴火を想定した架空のストーリーを視聴し、避けることのできない災害に対してどう向き合っていけばよいか考えた。「登山しているとき」「火山から少し離れた場所にいるとき」「安全な場所で噴火を知ったとき」の三つのシチュエーションについて噴火から身を守るための手段を考えさせてワークシートに記入させた。他の災害に比べて火山災害は実際に見たり体験したりしたことがほとんどない災害なので、映像資料を見ることは非常に効果的であったと思われる。

【授業時に使用した映像資料（画像のみ）とスライド】

<p style="text-align: center;">火山災害</p> 	<p>登山中に噴火したら？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルメットやリュックサックで頭や体（特に背中）を守る。 ※噴石対策</li> <li>ハンカチやマスクで口と鼻を守る。 ※火山灰・有毒ガス対策</li> <li>噴火した場所（火口）から逃がかる方向へ逃げる。</li> <li>避難小屋やシェルター、大きな岩陰などの安全な場所に隠れる。</li> <li>ただちに下山する。</li> <li>噴火を見ていない（写メを撮っていない）。 ↑やってはいけないこと</li> </ul>
<p>火山から少し離れた場所で噴火したら？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近くの建物（頑丈な）などへ避難する。 ※噴石対策</li> <li>ヘルメットやマスクを着用する。 ※噴石・火山灰対策</li> <li>那須岳からなるべく遠くへ移動（避難）する。 ※噴石・火山灰対策</li> <li>噴火警戒レベルの立ち入り規制範囲から外へ避難する。</li> <li>建物の中から外に出ない（むやみに外出をしない）。</li> <li>テレビやラジオで火山のこと（活動状況）を確認する。</li> </ul>	<p>安全な場所で噴火の事を知ったら？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テレビやラジオで火山のこと（活動状況）を確認する。</li> <li>火山の情報を聞きしたら、むやみに外出をしない。</li> <li>自分のいる場所が危険な地域ならば、直ちに安全な地域へ避難する。</li> <li>大噴火に備えて非難する準備をはじめよう。</li> <li>自分のいる場所が安全な地域ならば、慌てて行動しない。</li> </ul>

⑤ 土砂災害

土砂災害では、まず土砂災害が起きやすい理由を日本の地理的な特徴から説明をした上で、「土石流」「がけ崩れ」「地すべり」の3つの土砂災害について映像を用いながら講義をした（下記のスライド参照）。その後、実際に生徒たちが通っている山北高校のハザードマップを見ながら、山北町は土砂災害の危険性がどれくらいあるのかを生徒自身で推察し、土砂災害の被害を防ぐために各々で何ができるのかをグループで考え、発表した。最後に、擁壁工や砂防堰堤などの設置により、公的な面で土砂災害の対策をしていることや、個人レベルでは土砂災害警戒情報をしっかり見て、すぐに避難する重要性を意識し、生徒各個人で土砂災害の対策として日ごろから何ができるのかを考えさせた。

災害は、時として想像を超える力で襲ってくる。日頃から防災対策をしておくことで被害をできるだけ少なくするためには何ができるのかを考え、シュミレーションしながら、一人一人が自ら取り組む「自助」、また、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「公助」等、災害に備えるための防災対策、安全体側、適切な情報の確保等を知ることによっていつの日か来る災害にどう取り組んだらよいか考えさせた。

【授業時に使用したスライド】

	<p><b>1. 日本の土砂災害</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本列島は約① <u>7割</u> が山地</li> <li>地質は脆弱</li> <li>梅雨前線や台風などによる② <u>豪雨</u> がある</li> </ul>
---	--



## 2. 土砂災害の特徴

- (1) ③ 土石流 ...土砂と砂が一体となったもの
- (2) ④ がけ崩れ ...斜面が突然崩れ落ちる現象
- (3) ⑤ 地すべり ...上の地面がそのまま滑りだす現象



## 3. ハザードマップで山北町の現状を知ろう

step1: 山北高校の場所を探そう!

step2: 山北高校は何という区域に指定されている?

step3: 土砂災害軽々区域及び土砂災害警戒区域に指定されているところは地形的にどんな特徴があるだろうか? (個人用のみ)

step4: 土砂災害を防ぐためにはどのようなことに気を付けばよいだろうか? またどのような対策を取ることができるだろうか? (個人用のみ)

警戒レベル	取るべき行動	市町村が発令	気象庁が発表	警戒レベル相当情報
5	命を守る 最善の行動	災害発生情報	大雨特別警報** 氾濫発生情報	
4	避難	避難指示(緊急) 避難勧告	土砂災害警戒情報 土石流危険情報 高潮特別警報 高潮警報	
3	高層建物にはエレベーターは準備 他の住民は準備	避難準備 高齢者等避難開始	大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報 高潮注意警報**	
2	避難行動の確認	-	大雨注意警報 洪水注意警報 氾濫注意情報 高潮注意警報**	
1	心構えを高める	-	早期注意情報(警戒レベルの可能性)	

## 3. ハザードマップで山北町の現状を知ろう (答え合わせ編)

step3: 山が近くにある 山の斜面の近くにある

step4: 山に木を植える

## 4. 対策

- (1) 土石流対策 砂防堰堤 (スリット)



## 4. 対策

- (2) がけ崩れ対策 擁壁工



## 家を建てるならどこに建てる?

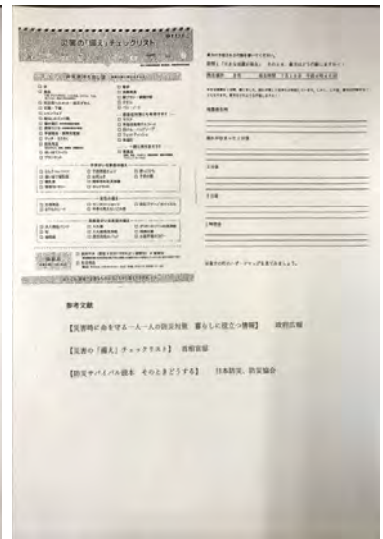
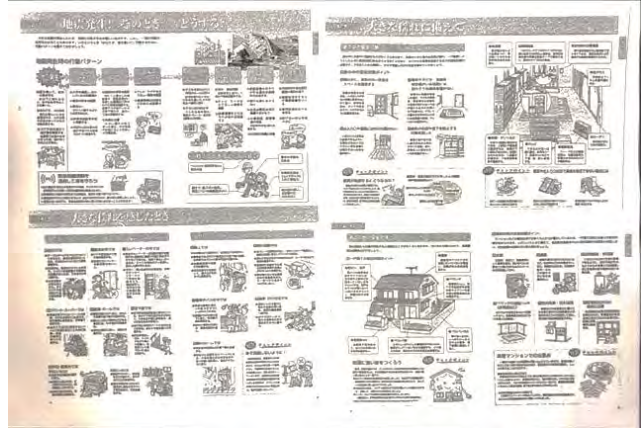
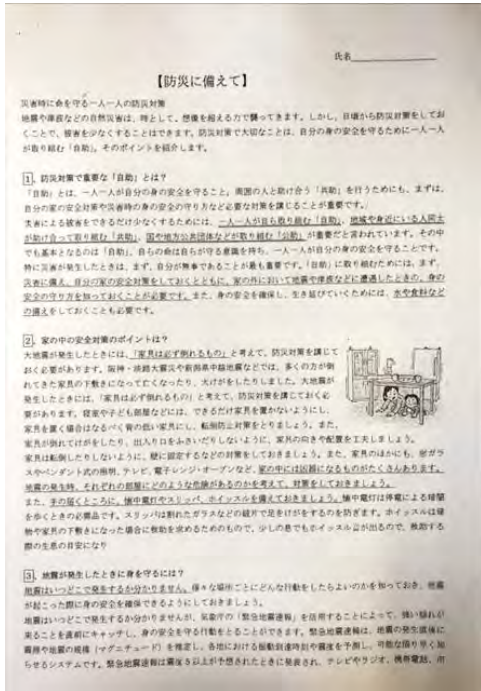


## 5. 私たちができること

- (i) 災害時は避難する
- (ii) 危険箇所を知る
- (iii) 日ごろから備える

⑥ 災害の備え

災害は、時として想像を超える力で襲ってくることもある。日頃から防災対策を行っておくことで被害を最小限にするためには何ができるかを考え、シュミレーションしながら、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、また、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「公助」等、災害に備えるための防災対策、安全体側、適切な情報の確保等を学び知ることで、いつか来る災害にどのように対処すればよいか考えさせた



c DIG・HUG・BOSS

① DIG

この講座では「逃げ地図（正式名称：避難地形時間地図）」の作成を体験した。逃げ地図とはハザードマップをもとに、自分たちで作成する地図である。逃げ地図は、避難に要する時間を地図上で可視化することができ、ハザードマップを眺めるだけでは得ることができない実践的な防災意識が身に付く。

逃げ地図は、白地図と紐（地図上で129mの長さ）と色鉛筆（緑・黄緑・黄・橙・赤・紫・茶・黒の8色）の最低限3つがあれば作成ができる。作業方法は、地図上に避難所などの災害発生時に避難する目標地点を定めて、紐を物差しとして使い、色鉛筆でその道のりを一定の歩行時間ごとに色分けをして塗っていくだけである。色分けは高齢者がゆっくり歩行（3分間で129m）して避難場所に到達する時間を3分ごとに分けている。色を塗った道のりに避難する方向をマジックで書き込むことで最短経路を分かりやすくすることもできる。

この活動で重要なことは、逃げ地図を完成させることではなく、制作過程において気付きや情報を共有し、防災意識をより高めることである。

【授業時に使用したスライド】

**DIGとは**  
 Disaster (災害) Imagination (想像力) Game (ゲーム)  
 参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練

**逃げ地図とは**

- 逃げ地図は近くの高台など避難目標地点までの避難経路と避難にかかる時間を示すもの
- 避難所までの安全・短時間でいけるルートを検討

**地図の読み取り (10:45~11:00)**

- 市や町が指定している避難所や津波避難ビルに緑シールを貼る
- 危険そうな道があったら×印をつける

**逃げ地図作成**

1. 安全な位置 (緑シール) から低い場所へ向かって、ひもをガイドに色を塗っていく

緑 → 黄緑 → 黄色 → オレンジ → 赤 → 紫 → 茶 → 黒 の順に塗る

どうして、ひもを使うの？

ひもの長さ=地図上で12.9Mの長さ(色一層分の長さ)

12.9M	25.8M	38.7M	51.6M	64.5M	77.4M	90.3M
1分	2分	3分	4分	5分	6分	7分

12.9M (3分の避難可能な距離)  
 25.8M (6分の避難可能な距離)  
 38.7M (9分の避難可能な距離)

**逃げ地図共有**

他の班の逃げ地図を見て気づいたことをワークシートに書く

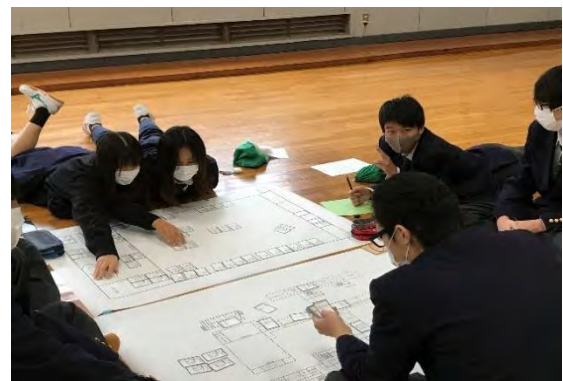
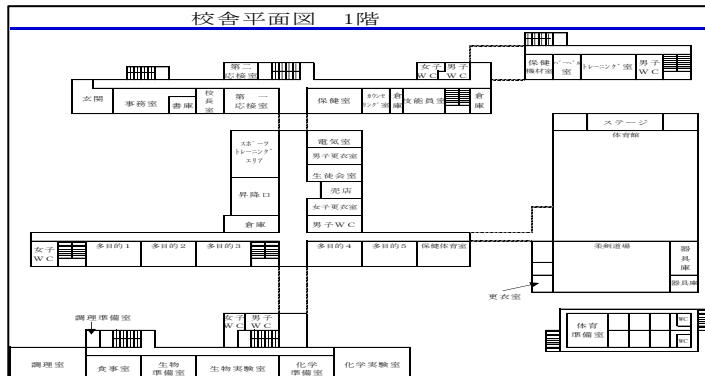
【授業時の生徒の様子】



② HUG

この講座において、生徒は「自分が避難所を運営する立場にあるとしたら、」という仮定に基づき、HUG (避難所運営ゲーム) 教材と本校校舎平面図を用いて、直面する様々な課題解決にチームで取り組む疑似体験をした。生徒が順次、めくるカードは、次々と訪れる避難者たちに例えられ、そのカードに記載された年齢、性別、生活の事情、心身の状態等を考慮し、限られて時間の中で、できる限り多くのカードを平面図の中に配置することが求められた。

生徒はこのゲームを通して、避難者が抱える様々な事情を考慮した、迅速な対応が急務である避難所運営の難しさを実感した。また、スタッフとして避難所運営の戦力となるには、防災知識を高めると共に人権感覚を磨くことが必須であることに気づいた。個々の事情に真摯に耳を傾け、偏見を持たず、できる限り要望に応えようと尽力できる人間性を養うきっかけとなった。



\*以下は、生徒が「振り返り」をしたワークシートと、その主な記載である。

### 授業振り返りシート

1. 今回のHUGをやってみて、どのように感じましたか？（難しかったことなど。）

- ・避難所にはお年寄り、車いすを使っている人、身体障害者などが来る。その人たちにとっては、私たちが普通に生活できる校舎が、すごく不便な場所になる。
- ・性別、年齢、家族構成などの情報だけで、配置を決めるのは難しい。個別に話をよく聞いて対応したいが、時間がかかると思う。

2. 実際に避難所を運営する時、どのような問題が生じると思いますか？

- ・避難者が多いと、個人のスペースが十分に確保できない。
- ・旅行者や、家族と離れて避難して来た人はとても心細くなる。
- ・持病があり、薬や治療が必要な人に適切な対応ができない。
- ・ペットを連れた人の配置は困難。

3. 2で出た問題を解決するために、どのような準備をしていく必要がありますか？

- ・個人が、避難所では提供されない物（個人的に服用している薬など）を予測し、避難の際に持ち出せるよう、日頃から準備しておく。
- ・身分証明書や家族への連絡先が記載されたものを携帯しておく。
- ・被災した場合に他者と助け合えるよう、日頃から地域の人や親類縁者と良好な関係を築く。
- ・自治会の避難訓練に参加し、被災した際の心得を身に付けておく。

4. 避難所を運営するにあたり、災害が起きていない普段の間にどのような準備をするかが非常に重要になってきます。実際に避難所を運営する時に役立つ道具を、3つ挙げなさい。またその理由も答えなさい。

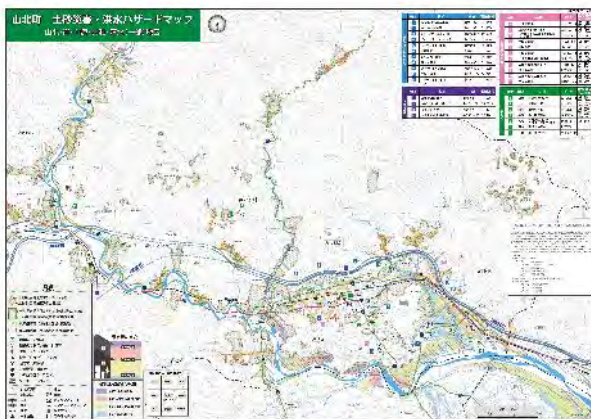
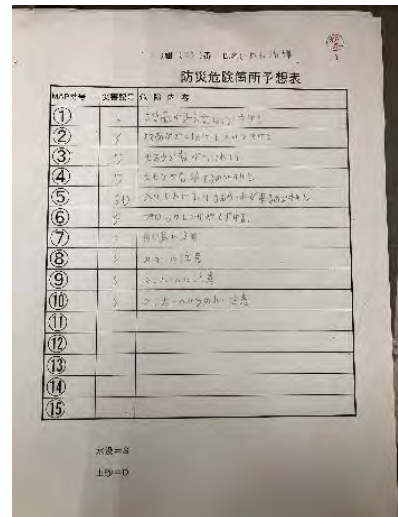
道具	必要な理由
マッチやライター	火を起こして、食事を作ったり、暖をとることができる。
スマホの充電器	連絡手段として多くの人がスマホを使うから。
懐中電灯	停電に備える。

2年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

### ③ BOSS

この講座では、山北町の防災マップを参考に、学校付近の詳細な防災マップを作成し、その作成した防災マップを参考に、実際に学校周辺を散策し、マップの想定通りに土砂崩れや浸水が起こった状況で、地図上だけではわからない障害や危険箇所（例えば、普段は気にならない場所でも50cm浸水ではどうなるかを仮想して）を具体的に見つけ、防災マップに加える作業を行った。

生徒は実際多くの危険が潜んでいることに気づき、防災意識を高めることが出来た。



## エ 成果及び評価

本科目を通して、生徒は防災について基礎知識を身に付けることができた。また、生徒たちの地域や生活に絡めた講義を行っていたため、地域防災の授業に対する意欲が非常に高く、防災・減災の意識づけができた。キャリアパスポートの「印象に残った授業」という項目の中でも「防災」と書く生徒が多く、彼らにとって日ごろから防災について考える大切さが分かる授業であった。

## オ 今後の課題

ワークシートの取組や発表を評価の判断材料としたが、どの教員が見ても公平に評価できる指標を作成することができなかつたので、「指導と評価の一体化」を意識した授業内容・評価方法の作成が今後の課題である。

地域防災の大きな目標として「守られる側から守る側へ～サバイバーになるために～」を掲げていたが、実際災害が起きた時に、生徒たちが守る側としての意識は持てたが、それが行動に結びつくような授業を行うことができなかった。今回、災害の知識はある程度身に付けることはできたため、それを踏まえたうえで、災害が起きた時や避難所で生活する時等どのように行動するのかを自発的に考えさせられるよう、今後、炊き出し体験や実際に避難所運営を体験してみるなど、もっと体験活動を導入することが必要である。

## 4 総合的な探究の時間「未来探究」(3学年)

### (1) 学年発表会

#### ア 目的

これまで学んできた未病・地域防災の知識と発見した地域の課題を結び付けて問題提起をし、独自の解決策を提案し実践する探究活動を通して、自己実現を果たす。

#### イ 日程

令和3年10月22日(金) 8時40分～14時30分

- ・ 各会場別学年全員発表会 8時40分～11時30分
- ・ 教員による代表者選考・協議 11時40分～12時10分
- ・ 代表者による全体発表 13時20分～14時30分

#### ウ 対象生徒

3学年 194名

#### エ 活動内容

1学年で学習した「山北」「未病」「防災」、2学年で学習した「未病」「地域防災」など、これまで学習してきた内容を生かし、地域との関わりについて踏まえながら作り、準備、製作に約半年間かけ、発表を行った。

昨年度の6種類のゼミを引き継ぎ、さらに未病のゼミを作成して8つのグループにわかれて各教室で担当の教員を配置して活動を行った。授業では、「毎回発表すること」をテーマとして、発表に慣れること、相手に伝えるスライドや発表スキルを身に付けることを目的として取り組んだ。発表の際は、右の図にもある発表・評価・改善シートを使用した。また、毎回聞き手を変える工夫をし、多くの意見を得られるようにした。特に、「アイディアのユニーク性を高める」「アクションプランの具体化」「調査やエビデンスの精度を上げる」ことを大切にして発表を行った。

最終発表の発表時間は各グループ4分とし、生徒はワークシートを使いながら採点と振り返りを行った。また、教員も採点に参加した。午前では、3会場に分かれて全グループが発表し、各会場から代表グループを選考した。その後、生徒からの採点結果も踏まえたうえで、教員で各会場から3～4グループを選出し、計10グループを午後の学年全体への発表グループとして選出した。

<採点基準は以下の4観点とした。>

- ・ 課題の共感性…根拠が十分で、多くの人が共感できる課題を設定できているか。
- ・ 解決策のユニークさ…まだ社会にないオリジナルの解決策を提案できているか。
- ・ 解決策の実行可能性…アクションプランが具体的に練られており、実際に実行できそうか。
- ・ プレゼンテーション…視覚的に効果的なプレゼンテーションができており、観客を説得できているか。

午後は体育館で学年全体に向けて代表グループが発表を行った。全発表終了後、教員で協議を行い、グランプリ1グループ、準グランプリ3グループを選出した。最後に校長、学年主任、カタパルトの担当者から講評をいただき、会を締めくくった。



### < 3 学年未来探究スケジュール >

山形県立探究学習推進委員会								20230414	
コマ番	クラス	科	1	2	3	4	5	6	7
	クラスごとのチーム	英語	加齢社会の課題 グループ	人口減少、高齢化、少子化	高齢化、医療福祉	AI、特産品	高齢化、環境化、防災	観光振興、人口増加	持続性、環境化、防災
	探究科目	英語	中津、小森	瀬戸	沼津、江	高松、津	小野寺	角田、鶴岡	白河
	教員		3-6	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	多岐的教員1 多岐的教員2
	チームメンバー 振り番号 チーム名 メンバー名								
1	4月15日	5	チーム名 1009 チーム分け (事前に協議) 前期までの成果物に別し、アイデアをもよりユニークにし、強化する話し合いを行い、スライドを作成する						
2	1	6	スライド作成 足りないもの、翌日のPW準備						
3	4月16日	1	発表						
4	1	2	発表						
5	1	3	発表						
6	1	4	スライド作成						
7	4月22日	5	アイデアのユニーク度を高める プレゼン+評価をチームで行う アイデアをもっと面白くする意見を出し合う						
8	1	6	スライド修正						
9	5月13日	5	アクションプランの作成 プレゼン+評価をチームで行う 発表に対しての質問や疑問、資料など何か必要なもの意見を出し合う						
10	1	6	スライド修正						
11	6月10日	5	内容やエビデンスの信頼性を上げる プレゼン+評価をチームで行う 発表に対しての質問や疑問、資料など何か必要なもの意見を出し合う						
12	1	6	スライド修正						
13	6月24日	5	プレゼン力を高める 最終的な完成度を上げる (隣の教室でプレゼン)						
14	1	6	スライド修正						
15	7月15日	5	最終の修正またはPW						
16	1	6	最終の修正またはPW						
17	9月17日	1	発表						
18	1	2	発表						
19	1	3	発表						
20	1	4	発表						





<発表・評価 改善シート>

発表・評価 改善シート

月 日 TEAM名

○ 良かった点

? 疑問点  
改善点

< 3 学年探究発表会 発表一覧 >

講演番号	タイトル	カテゴリー			
1	未病を見つけよう	未病	30	秦野市に住もう！！	未病
2	未病予防の食生活プログラム	未病	31	山北町の活性化	山北
3	新聞紙を使った運動	未病	32	Zero Garbage Project	その他
4	保護動物カフェを廃校に作ろう	山北	33	行ってみよう！！生まれ変わった山北町へ	山北
5	学校でイベントを開催したい	その他	34	山北町を人気な町にしよう！	山北
6	コロナウイルスによって破壊された自然とは	山北	35	山北町に若者を呼びこむために	その他
7	スマホ消毒について	未病	36	Y×Y 2つの町の魅力とは	その他
8	人口減少について	山北	37	山北森林セラピー	山北
9	未病改善	未病	38	山北町の活性化	山北
10	山北で結婚して住んでもらおう大作戦	山北	39	山北町に花火を打ち上げよう！	山北
11	秦野市を活性化させるためには	その他	40	山北と弓道	山北
12	山北町の人口を増やすための対策	山北	41	山北絶品極上パフェ	山北
13	地域から全国へ	山北	42	理想の山北	山北
14	休んで見つかる山北町	山北	43	山北町に人を呼び込むために	山北
15	山北町を健康にしよう	山北	44	ツリーハウスやグランピングをつくり、山北町を盛り上げる	山北
16	山北町の発展	山北	45	機械と高齢者の暮らし	未病
17	山北町の少子高齢化対策	山北	46	じゅーたい	その他
18	介護需要を少なくするには	その他	47	特産品をアピールするには？	その他
19	山北の町おこし	山北	48	Walk instead!!	未病
20	高齢化	山北	49	開成町に若者を呼ぶ方法	未病
21	産婦人科の必要性	その他	50	近代と自然の融合	その他
22	人口減少を防ぐためには	山北	51	宣誓！「だだだ・大統領」	山北
23	あなたと紡ぐ未来 観光で町をにぎやかに	未病	52	住みやすい町	山北
24	海老名のよさを多くの人にってもらうには、どうしたらいいか	その他	53	どうすれば御殿場線の利用が増えるのか	その他
25	特産品を使って地域の住みやすさUP!	その他	54	健康から始まるコミュニケーションって？	山北
26	箱根のおみやげで地域活性化	その他	55	山北町に人を呼ぶために	山北
27	山北町の魅力とは？	山北	56	山北を豊にするためには	山北
28	山北をもっと有名にするには	山北	57	キャンプ人口増殖計画	山北
29	南足柄市の特産品	その他	58	御殿場線の本数を増やしたい！	山北
			59	山北町の発展	山北

#### オ 成果及び評価

4月の最初の授業で1年間の授業スケジュールを示し、生徒は4月から約半年間この日の発表に向けて準備をしてきた。具体的には少人数のゼミに分かれ、プレゼンテーションの準備、発表練習を行い、生徒、教員からフィードバックをもらうことで改良を重ねてきた。繰り返し発表練習を行うことで生徒は発表に慣れることができ、人前に立つこと対しての抵抗も少なくなってきた。さらに、教員からだけでなく、生徒同士でフィードバックを行うことで、「いい発表」についての基準が徐々に定まってきた。それらを自分達の発表に生かすことで、よりよいプレゼンテーションへの改良がみられ、学年全体への発表会へ進めなかったグループでも非常に高いクオリティの発表となった。また、少人数のゼミでの活動によって、教員と生徒が密にコミュニケーションをとる機会が増加し、生徒一人ひとりにきめ細かな指導ができただけでなく、信頼関係が築かれ、授業以外の学校生活での指導も円滑に進めることができた。

#### カ 今後の課題

学年の生徒全員が大勢の前で発表することはできた一方で、長時間にわたって他グループの発表を聞くことにより、集中力が切れてしまう生徒もいた。また、生徒による評価も行ったが、インパクトのみに評価基準が偏ってしまう傾向がある。今後、評価基準を再検討するなどして、発表の内容に目を向け、集中力が続くような工夫をしていく必要がある。

## 5 研究成果発表会

### (1) 令和3年度研究成果発表会 【校内発表】

#### ア 目的

- ・ 発表を通じて生徒の発信力を高めるとともに、地域との協働を深める。また、講評を得ることにより今後の本校教育活動の改善に資するとともに、本事業の研究成果を他校に発信する機会とする。

#### イ 日程

令和3年12月17日（金） 【午前】

- ・ 開会の言葉（放送） 9：15
- ・ 生徒発表① 9：20～10：10  
1グループ8分（発表5分＋質疑＋入替え等）×6グループ
- ・ コメンテーターの講評※ 10：10～10：15
- ・ 休憩 10：15～10：25
- ・ 生徒発表② 10：25～11：10  
1グループ8分（発表5分＋質疑＋入替え等）×5グループ
- ・ コメンテーターの講評※ 11：10～11：15
- ・ 教室において本日の振り返り（生徒）

※ 山北町教育委員会・県職員・大学の教授など計24名の方々に、コメンテーターとしての来校をお願いし、(c)で前半の発表者に対する講評を、(f)で後半の発表者に対する講評をいただいた。

#### ウ 対象生徒

本校生徒全員（但し、12月18日の発表生徒は除く）

#### エ 発表会の内容

以下の表に研究タイトル一覧を示す。すべての会場（24会場）に、1～3年生が均等に入るようにし、他学年の発表を聞くことができるよう調整した。

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	1	食生活と健康-成長期の今、摂るべき栄養とは-	3-1
2	25	地震が起きたら	3-1
3	38	自殺が少なくなる社会	3-1
4	73	高校生による自転車事故の対策	3-1
5	97	犬の殺処分を減らすには	3-1
6	121	ゲームが現代の子どもに与える影響	3-1
7	145	スマホ依存が少ない社会	3-1
8	169	質の良い睡眠	3-1
9	193	食品ロスなくす	3-1
10	217	山北で結婚して住んでもらおう大作戦	3-1
11	241	山北町を人気な町にしよう!	3-1
12			3-1

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	2	地球温暖化と健康の関係性	3-2
2	26	火山はなぜ噴火するのか	3-2
3	50	山北高校を存続させるためには	3-2
4	74	健康的な生活	3-2
5	98	感染者をりにするには	3-2
6	122	毎日楽しく生きる方法	3-2
7	146	がんを治して健康に暮らそう	3-2
8	170	いじめを減らすには	3-2
9	194	コロナワクチン	3-2
10	228	産婦人科の必要性	3-2
11	242	山北町に若者を呼びこむために	3-2
12			3-2

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	3	心の病気とはなんだろう?(12月18日(土)代表発表)	3-3
2	30	地震が起きた時、助かるためにすること	3-3
3	51	豊かな海を実現するには	3-3
4	75	ゲーム=幸せな社会	3-3
5	99	バスケットボールにおけるアメリカと日本の違い	3-3
6	123	小学生の便秘	3-3
7	147	食事を楽しくするには	3-3
8	171	少子高齢化を止めるには	3-3
9	195	誹謗中傷について	3-3
10	219	山北町の人口を増やすための対策	3-3
11	243	Y×Y 2つの町の魅力とは	3-3
12			3-3

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	7	人々の生活にあるストレス	3-6
2	31	災害後の生活	3-6
3	55	手洗いについて	3-6
4	79	運動不足を解消するには	3-6
5	103	健康について~地域の人と交流し健康な人を増やそう~	3-6
6	127	海をきれいにするには?	3-6
7	151	高齢化社会	3-6
8	175	スケートボードがしやすい環境を作るには?	3-6
9	199	山北町の少子高齢化問題について(12月18日(土)代表発表)	3-6
10	223	山北町の発展	3-6
11	247	山北と弓道	3-6
12	265	御殿場校の本数を増やしたい!	3-6

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	8	睡眠障害~不眠症~	2-1
2	32	きな粉	2-1
3	56	高齢者の孤独死の現状と防ぐための対策	2-1
4	80	高齢者と障がい者の住みやすい町づくり	2-1
5	104	バリアフリーの大切さ	2-1
6	128	ニートについて	2-1
7	152	睡眠	2-1
8	176	コロナ感染	2-1
9	200	少子化を防ぐには	2-1
10	224	山北町の少子高齢化対策	2-1
11	248	山北絶品極上パフェ	2-1
12			2-1

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	9	睡眠と健康について	2-2
2	33	高齢者が抱える問題と対策	2-2
3	57	質の良い睡眠を取るには	2-2
4	81	高齢者がいきいきと元気に生きていける社会	2-2
5	105	高齢者と運動	2-2
6	129	愛護動物を守るには	2-2
7	153	殺処分を無くすために	2-2
8	177	どうしたら誹謗中傷をへらせるか	2-2
9	201	感染拡大を防ぐために	2-2
10	225	介護需要を少なくするには	2-2
11	249	理想の山北	2-2
12			2-2

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	4	ストレスと精神障害	保体教室
2	28	家の災害対策	保体教室
3	52	後悔しないために今できること	保体教室
4	76	災害時には自分の命を自分で守るためには	保体教室
5	100	生物を倒す責	保体教室
6	124	犯罪被害減少を目標として(12月18日(土)代表発表)	保体教室
7	148	スマホの見すぎによる健康被害	保体教室
8	172	高齢者が楽しく暮らせる町づくり	保体教室
9	196	コロナをなくすためには	保体教室
10	220	地域から全開へ	保体教室
11	244	山北森林セラピー	保体教室
12			保体教室

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	5	認知症予防	3-4
2	29	富士山が噴火したら	3-4
3	53	高校野球のおもしろさ	3-4
4	77	レスポーツは悪くない	3-4
5	101	人々が生活しやすいようにするには	3-4
6	125	睡眠の大切さについて	3-4
7	149	なぜ新型コロナを食べないといけない?	3-4
8	173	ポイ捨てを無くすためには	3-4
9	197	高齢者が住みやすい町	3-4
10	221	飲んで驚つか山北町	3-4
11	245	山北町の活性化	3-4
12			3-4

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	6	生活習慣病を防ぐためには	3-5
2	27	富士山が噴火したら・・・	3-5
3	54	健康診断	3-5
4	78	適切な睡眠について	3-5
5	102	地球温暖化のない社会	3-5
6	126	コロナが終息するには	3-5
7	150	日暮町を盛り上げるためには	3-5
8	174	ポイ捨てを無くすには	3-5
9	198	高齢者の事故を減らすために	3-5
10	222	山北町を健康にしよう	3-5
11	246	山北町に花火を打ち上げよう!	3-5
12			3-5

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	10	ストレス~高校生に向けて~	2-3
2	34	コロナで伝えることの無い世界を作るには	2-3
3	58	高齢者の交通事故を削減しよう	2-3
4	82	殺処分ゼロの国	2-3
5	106	障がい者が暮らしやすい社会	2-3
6	130	若い世代に文学の魅力を広めるために	2-3
7	154	新型コロナウィルスについて	2-3
8	178	生活の改善・健康な生活をおくるには	2-3
9	202	水と健康	2-3
10	226	山北の町おこし	2-3
11	250	山北町に人を呼び込むために	2-3
12			2-3

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	11	生活習慣病	2-4
2	35	ネット依存とコロナの関係性	2-4
3	59	自殺を無くすには	2-4
4	83	コロナ禍でのLIVE	2-4
5	107	食品ロス~食材が無駄にならない社会をつくるには?~	2-4
6	132	孤独死を減らすには	2-4
7	156		2-4
8	179	少子高齢化を防ぎ、明るい町にする為には?	2-4
9	203	皆がスポーツを好きになるには	2-4
10	227	高齢化	2-4
11	256	開成町に若者を呼び込む方法	2-4
12			2-4

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	12	依存症による悪影響	多目1
2	36	山高を廃校にしないために	多目1
3	60	育児休暇をとりやすくするには	多目1
4	84	LGBTが理解される世の中になるには	多目1
5	108	海の生き物がゴミを食べないようにするには	多目1
6	131	ペットボトルの活用	多目1
7	161	スマホの見すぎによる健康被害	多目1
8	180	交通事故について	多目1
9	204	コロナ禍でも楽しく遊べる方法とは?	多目1
10	218	桑野市を活性化させるためには	多目1
11	252	機械と高齢者の暮らし	多目1
12			多目1

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	13	生活習慣病 運動不足編	2-5
2	37	高齢者が安心できる場所をつくるには	2-5
3	61	少子化をなくすためには	2-5
4	85	防災に強いまち	2-5
5	109	高齢者の生きやすい世の中	2-5
6	133	日本の長所を他の国へ伝えるには	2-5
7	157	地球温暖化をなくすには	2-5
8	181	文化祭ができるようになるには	2-5
9	205	ねんご	2-5
10	229	人口減少を防ぐためには	2-5
11	253	じゃーたい	2-5
12			2-5

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	14	バランスの良い食事について	2-6
2	49		2-6
3	62	ストレスフリーに電車を乗車するには	2-6
4	86	若者の負担を減らし、高齢者を支えていける社会を実現するには	2-6
5	110	CO2と地球温暖化	2-6
6	134	高齢者が孤独、孤立しない社会を実現するには	2-6
7	158	アニメ、漫画の規制を厳しくしないためには	2-6
8	182	ネット依存を減らしていくには	2-6
9	206	コロナ禍でも感染を上げずにイベントを行う為には	2-6
10	230	あなたと訪々 観光で町をにぎやかに	2-6
11	254	特産品をアピールするには？	2-6
12	266	山北町の発展	2-6

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	15	ストレスがおよびやす精神障害	多目2
2	39	町をきれいにするために	多目2
3	63	男の人が家事(料理)に参加するためには	多目2
4	87	運動することのメリット	多目2
5	111	ゴミゼロの山北	多目2
6	135	アイヌが平和に暮らせる社会とは？	多目2
7	159	薬に子育てをするために	多目2
8	183	ゲームは本当に体に悪いのか	多目2
9	207	高齢者の病気を予防する	多目2
10	231	海老名のよさを多くの人に知ってもらうには、どうしたらいいか	多目2
11	255	Walk instead!!	多目2
12			多目2

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	19	ストレスを減らすために何をしていくか	1-4
2	43	勝勢中傷について	1-4
3	67	高齢者が健康で楽しく生きる社会	1-4
4	91	高齢者が住みやすい街作り	1-4
5	115	フードロスを抑える為にはできること	1-4
6	139	ゲームによる健康被害	1-4
7	163	心の健康を維持するには？	1-4
8	187	元気なおじいちゃんになるため	1-4
9	211	保護動物カフェを廃校に作ろう(12月18日(土)代表発表)	1-4
10	235	山北をもっと有名にするには	1-4
11	263	山北を豊にするためには	1-4
12			1-4

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	20	南海トラフ地震が起こったら	1-5
2	44	ゴミを減らそう	1-5
3	68	ゴミの削減について	1-5
4	92	カラスのゴミ問題	1-5
5	116	～山北町の特産品を使った料理を作るには！！～	1-5
6	140	音楽で疲れが取れるのか	1-5
7	164	コロナの中での飲食業	1-5
8	188	バスケットについて知ってもらおう！！	1-5
9	212	学校でイベントを開催したい	1-5
10	236	南足柄市の特産品	1-5
11	260	どうすれば御殿場線の利用者が増えるのか	1-5
12			1-5

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	21	地震から命を守れ!!	多目3
2	45	障害者の方々が住みやすい町にするには	多目3
3	69	コロナ禍での自殺について	多目3
4	93	コロナについて	多目3
5	117	フードロスと環境問題	多目3
6	141	食品ロスを少なくするために	多目3
7	165	食品ロスを少しでも減らすためには？	多目3
8	189	日本の生き物を守りたい	多目3
9	213	コロナウイルスによって破壊された自然とは(12月18日(土)代表発表)	多目3
10	237	養野市に住もう！！	多目3
11	261	健康から始めるコミュニケーションって？	多目3
12			多目3

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	16	食生活から出る体への影響	1-1
2	40	食品ロス	1-1
3	64	山北町の過疎化を防ぐためには	1-1
4	88	新型コロナウイルスの感染を減らすためには	1-1
5	112	犬の殺処分をゼロに	1-1
6	136	山北をPRするパンフレット作り	1-1
7	160	スマホによる健康被害を解消するには	1-1
8	184	なぜポンスケが平塚市にないのか	1-1
9	208	未病を買つけよう	1-1
10	232	特産品を使って地域の住みやすさUP!	1-1
11	251	ツリーハウスやグランピングをつくり、山北町を盛り上げる	1-1
12			1-1

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	17	睡眠と健康	1-2
2	41	高齢者ドライバーの問題について	1-2
3	65	戦争と黒人差別について	1-2
4	89	目が不自由な人が不自由なく暮らすためには	1-2
5	113	コロナ感染者を減らす為には	1-2
6	144	若さを保つ生活	1-2
7	156	コロナ禍の終息のためには	1-2
8	185	コロナの中よりよく生きていくために	1-2
9	209	未病予防の食生活プログラム(12月18日(土)代表発表)	1-2
10	233	箱根のおみやげで地域活性化	1-2
11	257	近代と自然の融合	1-2
12			1-2

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	18	ストレス解消するために	1-3
2	42	運動	1-3
3	66	過疎化の対策	1-3
4	90	食品ロスを減らすには	1-3
5	114	ガン(大腸ガンについて)	1-3
6	138	いじめのない平和な世界にするために	1-3
7	162	殺処分のない世界	1-3
8	186	コロナ禍での安全な会食	1-3
9	210	新聞紙を使った運動	1-3
10	234	山北町の魅力とは？	1-3
11	258	宣言！「ただだ・大統領」	1-3
12			1-3

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	22	地震が起きたら	多目4
2	46	少子高齢化を防ぐには	多目4
3	70	保育園の不足	多目4
4	94	コロナを気にしないで生活できる社会を実現するには？	多目4
5	118	コロナ感染者数を減らすには	多目4
6	142	「交通安全への意識欠如を解決するためには」	多目4
7	166	不法投棄が少ない町を実現するためには	多目4
8	190	高齢者の詐欺被害を減らす	多目4
9	214	スマホ消毒について	多目4
10	238	山北町の活性化	多目4
11	262	山北町に人を呼ぶために	多目4
12			多目4

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	23	山北で土砂崩れが起きたらどうする?!	多目5
2	47	高齢者が元気に外に出ることが出来る社会	多目5
3	71	軌線に苦しんでいる人を救うには	多目5
4	95	高齢社会とA技術の共存	多目5
5	119	フードロス	多目5
6	143	中高生にパソコンを使ってもらおうには？	多目5
7	167	小田原市をきれいに	多目5
8	191	誰でも楽しくできる運動	多目5
9	215	人口減少について	多目5
10	239	Zero Garbage Project	多目5
11	259	住みやすい町	多目5
12			多目5

発表順	番号	研究タイトル	会場
1	24	もし噴火が起きたら?!	多目6
2	48	二次元に行く方法	多目6
3	72	美容師の働き方	多目6
4	96	若者が暮らしやすい街を実現するには	多目6
5	120	ホラーを広めよう～町を活性化させる～	多目6
6	137	コロナを気にせず出かけるようになるには	多目6
7	168	LGBTの差別を無くすためには	多目6
8	192	地球にも環境にもやさしい食べ物	多目6
9	216	未病改善	多目6
10	240	行ってみよう！！生まれ変わった山北町へ	多目6
11	264	キャンプ人口増強計画	多目6
12			多目6



発表終了後、生徒は発表に対する意見やアドバイスを「良かった点・改善点シート」に記入し、発表者に渡した。来場者にも同じシートに記入してもらい、生徒にその場で渡していただき、生徒発表の終了後、コメンテーターから、生徒の発表に対する好講評をいただくことができた。



オ 来場者のアンケートより

来場者に特に印象に残った発表タイトルとその理由を聞いた。以下のような回答が寄せられた。

- ・ 「山北と弓道」  
新しい観光スポットを作るのも大切ですが、既にあるものを活かすことで、歴史の伝承、景観の保全も出来るため、着眼点がすばらしいです。
- ・ 「健康について」  
健康の定義って何だろう？と考えるその着眼点が素晴らしいです。健康の定義は難しいため、これからも考え続けてほしいです。
- ・ 「適切な睡眠について」  
手元の読み原稿やスマホを見ず、自分の言葉で発表ができていた。データも自身でアンケートを取ったり、改善策を実施前後で比較するなど、論理・分析がしっかりしている。
- ・ 「高齢者の事故を減らすには」  
発表内容を把握し、相手に語りかける（反応を見る）ようにしていた。原因・課題への分析が明確であり、独自の解決案（補助金や若年・高齢層の免許取得時の交流など）が提案されている。
- ・ 「高齢者が生きやすい社会」  
高齢者や障がい者の周りの環境をよく調べていて、発表中には実際の事例を挙げながら発表していたので分かりやすかった。
- ・ 「ネット依存を減らしていくには」  
自分を被検者とし、5分間で簡潔にかつわかりやすくまとまっていた。
- ・ 「山北をPRするパンフレット作り」  
テーマに”ぶれ”がなく、企画から完成までまとまりがある。高校生らしさを感じる。
- ・ 「山北町に人を呼び込むためには」  
自分の業務にも関係する地域活性化がテーマだったので印象的でした。若者から高齢者まで楽しめる「全世代参加型スポーツイベント」の開催という提案は、高校のクラブ結成まで具体的に検討されていてとても良かったです。
- ・ 「アイヌ民族が平和で暮らせる社会とは？」  
アイヌ民族に対して理解を深める説明をしっかりとした上で、問題点を提示したこと。後半のグループはさらに印象的で、3年生の堂々とした姿は、1・2年生に印象的だったと思います。
- ・ 「山北で土砂崩れが起きたらどうする!？」  
発表の中にクイズも取り入れ、発表者だけでなく全体で発表会に取り組んでいる雰囲気でした。
- ・ 「コロナの中よりよく生きていくために」  
発表がうまかった。冒頭、みんなに問いかけて注意を引き、グラフの説明などスライドの近くで示しながら解説。原稿を読まずに話すところも多かった。また、スライドの作りもよく、センスがうかがわれた。

- ・ 「箱根のおみやげで地域活性化」  
 現状調査、課題の発見、対策案の提示、それぞれポイントを押さえていた。アイデアが実現可能性、実効性が高かった。
- ・ 「若さを保つ生活」  
 調査 → 対策で、「山北町でできること」を盛り込んでいたところ。
- ・ 「LGBTの差別を無くすためには」  
 非常に難題だったと思います。本学の小論文の課題にも上がるような課題です。私見を入れながら、社会のルールなどを見据え、発表していました。
- ・ 「食品ロスを少しでも減らすためには？」  
 私ができることを具体的に示したことは非常によいと思いました。
- ・ 「家の災害対策」  
 実際に厚木の防災センターに行った内容も盛り込まれていてよかったと思います。
- ・ 「ストレスと精神障害」  
 自分たちでストレス解消法として考えた筋トレ動画を紹介した点も印象に残りました。
- ・ 「コロナ禍でのライブ」  
 ライブ前の予約のプロセスから当日の会場の様子まで大変わかりやすく整理されていました。とても具体的でリアリティのある発表でした。
- ・ 環境問題、人権問題、今日的課題、どれも印象に残りました。
- ・ 「高齢者の事故を減らすために」  
 問題点をしっかりと「自分事」として捉えていたので、自分の言葉で発表することができていました。プレゼンの仕方も、とても落ち着いていて良かったです。
- ・ 「休んで見つかる山北町」  
 資料構成、話の組み立てが非常に上手でした。実施にたり、コスト額、資金の調達方法にまで触れており、分かりやすい発表でした。
- ・ 「山北をもっと有名にするには」  
 地域社会の課題に目を向け、道の駅にまでヒアリングに行き、探究的な学習に繋がっていた。
- ・ 「がんを治して健康に暮らそう」  
 限られた時間の中でがん検診の大切さを伝えるために、神奈川や山北町の取り組み、またアメリカとの対比など効果的に表現されていました。まとめでは、自分はこの学びを踏まえてどうするか具体的な行動が述べられていました。説得力があったと思います。発表の声の大きさ、スライドもわかりやすく感心しました。
- ・ 「ゲームが現代の子どもに与える影響」「スマホ依存が少ない社会」の2本  
 決して解決できないであろう課題に対し、自らの考えを持ち、チャレンジする姿勢に感動しました。
- ・ 「秦野市を活性化するためには」「機械と高齢者のくらし」  
 それぞれ行政視点、市民の視点から現状をとらえて解決提案までする興味深い内容でした。
- ・ 「スマホ消毒について」  
 アンケート調査や企業へのヒアリングなど、実践的な活動を通して具体的なデータ提示や提案がなされており、素晴らしい。



- ・ 「交通安全への意識欠如を解決するためには」  
自分事として課題設定し、提案までしっかり調べ、考えている様子が伺える。
- ・ 「高齢者の詐欺被害を減らす」  
調査・考察が適切で、論理的な発表をしていた。

#### カ 全体を通して

今回の発表会では、それぞれの生徒が1～3年かけて探究に取り組んできた成果を発表する機会として、生徒全員が発表するように設定した。その際、各発表会場には1～3年生が必ず入るようにし、下級生が上級生の発表を聞くことで学びの機会が得られるようにした。また、すべての会場には、外部からコメンテーターの方々に入ってもらい、それぞれの専門家からの貴重な意見並びにアドバイスをいただけたことは、本校生徒にとっても、また教職員にとっても非常に良い学びの機会となった。

来場者アンケートでは印象に残った発表タイトルとその理由を問うもので、発表活動に関して概ね好意的な意見が多かった。一例として「手元の読み原稿やスマホを見ず、自分の言葉で発表ができていた。データも自身でアンケートを実施したり、改善策を実施前後で比較するなど、論理・分析がしっかりできていた。」「地域社会の課題に目を向け、道の駅にまでヒアリングに行き、探究的な学習に繋げていた。」など、生徒の探究活動を通して学んだことや日頃の発表活動等で練習を重ね、身に付けたプレゼンテーション能力を評価する意見が多く見られた。しかし、アンケートの回答に挙げられなかった発表グループは、発表内容や発表方法等について改善の余地があり、今後、教員の支援や外部講師との連携を通して、より魅力的な発表にするための支援が必要と考える。今後、生徒の実際の発表事例を挙げ、具体的なデータを提示しながら、自分事として捉えた発表活動にしていく努力が必要である。

#### キ 今後

今回は、生徒が司会を行い、教員がタイムコントロールを行う中で、生徒が主体的に運営していたように見えたが、今後は企画段階から生徒が積極的に関わるなど、生徒が担う役割をさらに増やしていき、より一層生徒主体の運営にしていきたい。

## (2) 令和3年度研究成果発表会 【校外発表】

### ア 目的

- ・ 発表を通じて生徒の発信力を高めるとともに、地域との協働を深める。また、講評を得ることにより今後の本校教育活動の改善に資するとともに、本事業の研究成果を他校に発信する機会とする。

### イ 日程

#### a 令和3年12月18日(土)【午前】

- ・ 開会のことば・校長挨拶 9:30
- ・ 3年間の取組について 9:35～9:45
- ・ 生徒発表① (1グループ7分×3グループ) 9:45～10:05
- ・ 休憩 10:05～10:15
- ・ 生発表② (1グループ7分×3グループ) 10:15～10:40
- ・ 発表生徒への質疑応答 10:40～10:55
- ・ 閉会のことば 10:55

#### b 令和3年12月18日(土)【午後】

- ・ 開会のことば【副校長】 13:00
- ・ 校長挨拶 13:02～13:07
- ・ 来賓挨拶【文部科学省 / 山北町長】 13:10～13:25
- ・ 来賓紹介 13:30

#### <第1部>

- ・ 生徒発表① (1グループ7分×3グループ) 13:45～14:05
- ・ 休憩
- ・ 生徒発表②(1グループ7分×3グループ)
- ・ 生徒の発表に対する意見・感想【文部科学省】 14:35～14:50

#### <第2部>

- ・ 3年間の取組について 15:20～15:30
- ・ パネルディスカッション 15:35～16:10
- ・ 県教育委員会より 【高校教育課】 16:10～16:15
- ・ 校長挨拶 16:15～16:20
- ・ 閉会のことば 16:20

### ウ 対象生徒

本校生徒全員(会場の関係で、午前中は2学年、午後は1・3学年)

## エ 発表会の内容

発表1：オムライス（1年生グループ）

テーマ：心の病気とは何だろう

概要：精神疾患を有する人口の増加に伴い、人々の健康に影響が出ていることを知り、心身ともに健康でいられる社会の実現に貢献したいと思ったためこのテーマにした。そこで、精神疾患の状態やその原因を知ってもらうことが、未病改善の第一歩になると考え、絵本を作成しようと思った。



発表2：大畑凌馬（2年生）

テーマ：犯罪被害減少を目指して

概要：祖父母の家がある厚木市では、犯罪の件数が多いためこのテーマにした。市区町村の犯罪件数などを調べていると、窃盗犯が多く、高齢者が受ける犯罪被害でも一番多いことが分かった。そこで既存の防犯アイテムを調べてみると、高齢者の方には扱いにくいものが多かったので、高齢者でも扱える手軽なGPSを提案しようと思った。



発表3：西迫翔太郎（2年生）

テーマ：山北町の少子高齢化問題について

概要：僕が陸上競技部の活動で山北町を走っている時に、若い人を見かけることが少なく、山北町の少子高齢化が気になったのでこのテーマを選定した。探究を進めていくうちに、年々人口が減少し、少子高齢化も進む、危機的な状況にあることが分かった。そこで僕は皆さんも利用できるSNSを活用した対策法を提案します。



発表4：たかうみ's（3年生グループ）

テーマ：新型コロナウイルスによって破壊された自然とは

概要：新型コロナウイルスの蔓延に伴う山北町の自然への影響について疑問を持った。そこで山北町役場などへのインタビューから、バーベキューや路上駐車などが自然破壊につながっていることが分かった。それらの課題解決につながる山北町への提案として、「GO TO 山北」を企画し、その具体的な企画内容を考えた。



発表5：ラオス（3年生グループ）

テーマ：保護動物カフェを廃校に作ろう。

概要：毎年多くの保護動物が引き取り元がないために殺処分されている。保護動物の施設を建てるには様々な条件が必要であるが、自然豊かで広いことが特徴の山北町にこのような施設を建てることができないか考えた。さらに、施設を建てるだけでなく、山北町のPRにも役立てるようなアイデアを考え、「保護動物カフェ」を提案することとした。



発表6：川添プログラム（3年生グループ）

テーマ：未病予防の食生活プログラム

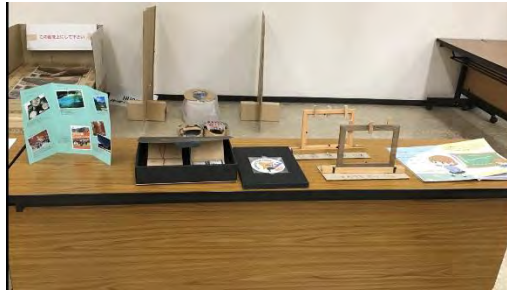
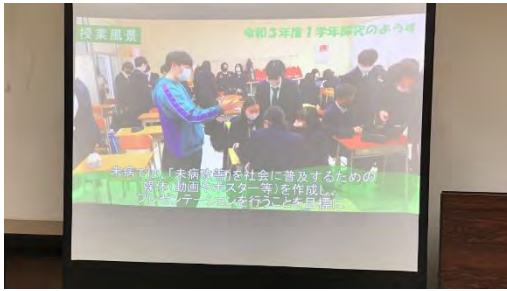
概要：未病について関心を持ち、その予防について調べた。その結果、食事の栄養バランスが未病の予防に深く関連していることが分かった。そこで、東洋医学の視点から「健康的な献立作り」について考え、献立を組み立てるための表を作成した。



オ 展示ホールの様子

展示ホールでは、3年間の研究での取組の様子を動画で流したり、授業で実際に制作したものを展示した。当日の午前中は、近隣の中学校3年生とその保護者の来場もあり、生徒の取組内容を真剣に見ている姿が印象的であった。





#### カ 学校の取組についての発表

文部科学省の指定を受けてからの3年間の取組についての報告を沖津総括教諭が行った。3年間の成果として、1つは探究活動を行う上で、学校以外の方からも指導を受けることにより、これまで生徒自身にはなかった視点から物事について考察することができるようになり、発表機会を多く持つことにより、生徒のプレゼンテーション能力の向上が見られた。もう1つはアンケート結果にもあるように、山北町に対する興味関心が増えたことが挙げられた。今後の課題として、生徒の卒業に伴い、探究内容データを引き継ぎながら、テーマの継続を工夫する必要がある等が挙げられた。



#### キ パネルディスカッションの様子

後藤健夫氏を進行役に、羽入田眞一氏・浦崎太郎氏・小村俊平氏をパネリストにお招きし、「山北町と探究学習」というテーマでパネルディスカッションを実施した。パネリストからは、山北高校の探究学習を応援することによって山北町が元気になる、といった意見が挙げられた。さらに、浦崎太郎氏からは探究学習を「恋愛」になぞらえるなど、ユニークな表現も用いながら探究学習についてディスカッションが行われた。また、その話の中で、小村俊平氏からは、評価とは「自分がどういう条件ならば力を発揮できるか、活躍できるか」を他者に説明するためのものだという意見が挙がり、今後の取組の評価の仕方についても参考になるものであった。



## ク 来場者・来賓アンケート結果

### a 生徒の発表全般について

- ・ 多少不便でも、若者が住みたくなる生活環境を調べていただきたい。
- ・ どの発表者も、歯切れが良く、スピード感もちょうど良く聞きとりやすい。
- ・ 調査と提案が深くできている。
- ・ もっと調べていたり、現場の声を聞いたりすると、更に気づき、学びができると思います。本当に今後に期待ができました。
- ・ 原稿を使わず、自分たちの言葉で話をされており、よく内容が伝わりました。
- ・ 高校生らしい発想が生かされていました。これらの提案をいかに広げていけるか、現実化できるかが大切だと感じました。
- ・ どの発表でも、1つのアイデアや提案を、複数の視点で客観的に分析し、問題点やさらなる対策にまで言及して深めていた点が良かった。どの発表も適切な長さで理解しやすかった。
- ・ 共通しているのが自分達にできることは何かについて考えていること。これが高校生らしく、とても良かった。
- ・ 提案の内容が具体的だった点がとても良かったです。
- ・ 発表者が堂々としていて、どのグループも聞きやすかった。
- ・ 問題点だけでなく、問題解決に向けたアイデアとそのメリット・デメリットをしっかりと調査していた。
- ・ 実現可能な提案がたくさんあって、素晴らしかったです。
- ・ 聞き取りやすい声で良かった。もう少し時間をかけて聞きたいと思った。
- ・ 少し早口であった。
- ・ 地域ならではの課題設定や解決策が面白かったです。
- ・ グラフやデータをうまく使って発表の仕方も上手でした。
- ・ スライドの構成、プレゼン等、魅せ方のクオリティは高校生だと感じませんでした。思考のプロセスやアイデアも素晴らしかった分、その前のテーマ設定、想いの部分でもっともっと身近なものでもいいので、自分事になるテーマ設定になるといいなと感じました。
- ・ 「プレゼンの力」を強く感じました。
- ・ 他者から聞いた話、インターネットなどの文献と合わせて、今後はできる範囲で体験するような活動をするより自分事になると思います。
- ・ 3学年の発表で良かった取組みはぜひ下級生に引き継いでもらえると良い。
- ・ 皆さん、中身が濃くて、とても分かりやすかったです。中にはすぐ家庭でも取り入れて実行できる内容もありました。
- ・ みんなハキハキして話をしていたので、聞きやすかった。

### b 特に印象に残った発表タイトルとその理由

#### 発表①「心の病気とは何だろう」

- ・ 1年生でここまでできることが素晴らしい。
- ・ プレゼンがとても上手でした。
- ・ 1年生の発表として、内容レベルが高かった。

- ・ これからの時代を支えていく子たちが、このようなテーマを選んだこと、感心しました。
- ・ 課題に思ったことに対してよく調べられていたと思います。スライドも見やすく、ハキハキ話せていました。作成した絵本の内容が気になりました。絵本の内容を発表に盛り込んでもよいかもしれません。

#### 発表②「犯罪被害減少を目指して」

- ・ おばあちゃんへの心配事を自分事としてとらえ、発想している点、また、お年寄りでも無理なく利用できるアイテムである点が素晴らしい。(商品化して、おばあちゃんにプレゼントしていただきたい)
- ・ 身内の心配から提示していったことが良い。
- ・ テーマの選定理由が祖父母のことを思ってという点。GPS やブザーなどの一般的な防犯グッズのデメリットを挙げながら、すぐに実現できそうな提案をされていた点。話し方も上手でした。
- ・ 個人的には一番想いが乗っていて、筋が通っていると感じました。
- ・ テーマ設定がおもしろく、もっと深掘できそうだから。

#### 発表③「山北町の少子高齢化問題について」

- ・ SNS での山北町の魅力発信は、我々町民も進めることが大事ですが、10代の視点が大事ですね。協力お願いします。
- ・ 現代的課題が取り上げられていますね。
- ・ 今後の活動に期待したい。
- ・ 発表者が原稿を読むだけでなく、しっかり伝わってきた。
- ・ データ収集力と少子高齢化対策に向けた新たな情報発信のアイデアは参考になった。
- ・ 若者らしい SNS を利用した素晴らしい内容であった。
- ・ 身近な問題を自分たちができる範囲のやり方で提案しているところ。
- ・ 話し方がとても上手でした。スライドの文字はもう少し大きいと良いと思います。「なぜ若者は都会へ行くのか」という疑問がとても良かったです。この問いからいろんな発見が今後生まれそう。

#### 発表④「コロナウイルスによって破壊された自然とは」

- ・ 実現可能な対策を考えているのが良いと思った。
- ・ 前年の発表を踏まえて、さらに進化されていた。
- ・ 具体的な方法を提案していた。
- ・ 価格設定まで具体的に実現できそうな形になっており、解決したいことも明確であった。
- ・ すぐにでも実行できそうなプログラムだから。
- ・ 具体的な施策が示されているので、分かりやすかった。

#### 発表⑤「保護動物カフェを廃校に作ろう」

- ・ よく調べてあり、説得力がありました。発想もよく、山北町の特徴を考えていただいていた。
- ・ 学校から外に出て、課題を見つけ解決策を考える活動は素晴らしいです。
- ・ 「生命を大切にすまち～山北」は、今、犬猫を題材にしたテレビ番組も多く、タイミングよく三保小が利用できたら本当にうれしい。探究活動としてとても素晴らしいものでし

た。

- ・ クラウドファンディングなど、もう実際にスタートできるのではと感じました。
- ・ 保護動物カフェは切実な一刻の猶予もない問題なので、特に押し進めていく課題だと思いました。
- ・ 保護猫の話題は世間的に以前より話題になっているので、良いテーマだと思います。実際にどれくらい県西地区の人が保護動物に興味を持っているのかを意識調査してみても面白いかも。
- ・ 動物が好きなので、とても良い提案だと思う。

#### 発表⑥「未病予防の食生活プログラム」

- ・ 健康的な山北町の PR で素晴らしい。声の良い話術は特出です。話に惹き込まれました。
- ・ 実際に対策が実現しそうなレベルにまで具体化されていた。
- ・ 話し方や声がとてもよかったです。
- ・ 原稿を見ないでプレゼンしている姿が GOOD でした。
- ・ 詳細な献立まで五味に分けて紹介できていて良かったです。

#### c その他、発表会全体を通してご感想や改善点等

- ・ 発表時間もちょうど良い。
- ・ 複数人での発表より、1人での発表の方が聞きやすいと思う。
- ・ 発表の声、スピード、親しみやすさ、伝える力があると思いました。6グループの発表でしたが、本日発表にいらなかった生徒さんたちの努力も称えます。
- ・ 皆さん、発表に慣れている感じがしました。自分の当時（高校時代）と比べると大変素晴らしいと思いました。
- ・ 発表はゴールではない。今後の活動を地域にどう結び付けていくのかが大事だと思う。
- ・ 様々な具体的な取組を見ることができ、実際に山北でも応用できそうな内容でした。SNSも効果的に使い、山北高校生のような若者が発信することによって、山北も変わることができるかもしれないという希望を見出すことができました。ありがとうございました。
- ・ 前日と同様に、パワポの作り方や話の進め方が本当に上手でした。こんなに大きな会場でたくさんの人の前で全員落ち着いて話せていたのがすごいなと思いました。
- ・ 発表のときに、スマホが原稿になっていたのが、世代の差を感じました。数年後にはそういう世代の方たちと働くことになるので、心得ておこうと思いました。
- ・ こうした探究活動は是非継続してほしい。
- ・ 様々な提案がどれか一つでも実現できるように、次の展開が重要。
- ・ 全体的に、素晴らしかった。この研究をさらに続けてください。
- ・ 高校生の目線での気づきが本当に興味深かったです。本日は素敵な機会をありがとうございます。
- ・ それぞれがいろんな視点から山北町について考えたり、世の中の問題に取り組んでいて、若い子たちがこのような学びをしているという事に明るい未来を感じました。良い取組みだと思います。今後も期待しています。
- ・ 今後、プロジェクトを実行に移して、試行と検証を繰り返し（PDCA）、より良いものにしていってください。



- ・ 色々な分野のテーマがあって、素晴らしかったと思います。
- ・ このような探究活動での学んだ考えは、将来も必要となる考え方のため、ぜひ役立ててください。
- ・ もう少しテンポをゆっくり進めてほしいです。スライドの文字が小さくて見えにくい時もありました。
- ・ とても楽しそうな表情で、興味を持ちました。
- ・ 話すスピードが早くなってしまうとせつかく研究したことが伝わりにくいので、気を付けたらと思う。今後も頑張ってください。

#### ケ 全体を通して

これまで、多くの方に関わっていただきながら進めてきた研究の成果を発表することができた。アンケートにもあるように、代表生徒の発表に対して、好印象な評価が多くあったように思われる。高校生の視点で、地域が抱える課題についての解決策が具体的に出されている点が評価されたのではないかと考えられる。また、展示ホールでは、山北高校の3年間の取組を、制作物や動画を通して、来場者に見ていただくことができた。

パネルディスカッションや情報交換会では、外部からの視点で今回の取組について意見をいただくことができ、今後の取組を継続していく上で、参考にしていかなければならないと感じた。情報交換会では、他県でも同様な取組をしている学校もあり、地域との協働の部分で参考にしていただけた部分が多くあった。



#### コ 今後の展望

文部科学省の指定は今年度で終わりになるが、今後も山北町との協働や生徒や生徒たちの取組は続いていく。また、規模は縮小していくが、生徒の意識付けに非常に効果大きい外部への発表会も継続していきたい。そのためには、本研究の中で取組んできたことを、しっかりと整理していく必要がある。

教員の異動等により、本研究の立ち上げから関わってきた教員も少なくなってきたが、この取組内容を継続できるよう、教員側も課題を整理・分析し、「未来探究」と学校設定教科「あしがら」の時間を有効に活用し、この3年間の取組をさらに発展できるようにしていきたい。

### (3) 山北町への報告会（政策提言）

#### ア 目的

山北高校が3年間取り組んできた「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）」（文部科学省指定）の成果を山北町民に報告する。

#### イ 日程

令和4年1月14日（日）

#### ウ 対象生徒

2学年1名、3学年2グループ10名

#### エ 発表生徒の選抜

2年生と3年生はそれぞれ学年での発表会を実施している。その発表会で優秀だった発表、さらに山北町への政策提言としてメッセージ性のある発表を教員で選抜し、2年生1グループ、3年生2グループが山北高校の代表生徒として発表会に参加した。

#### オ 生徒による山北町への政策提言

##### ①「山北町の少子高齢化問題について」

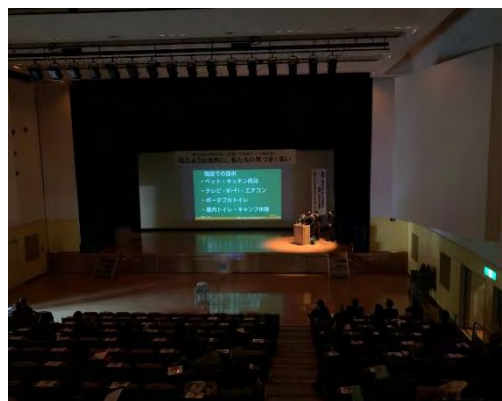
山北町の人口ピラミッドのデータなどから、今の山北町が抱える問題について紹介した。これらの問題について山北町が現在取り組んでいる事業を紹介したが、町外の多くの人に知られていないことを問題点として提起し、そこで、SNSを使った情報発信を通じて、山北町の取組をアピールしてけるのではないかと提言した。実際に、発表者自身が山北町の名所で撮影した写真を紹介し、具体的な情報発信の方策について紹介した。

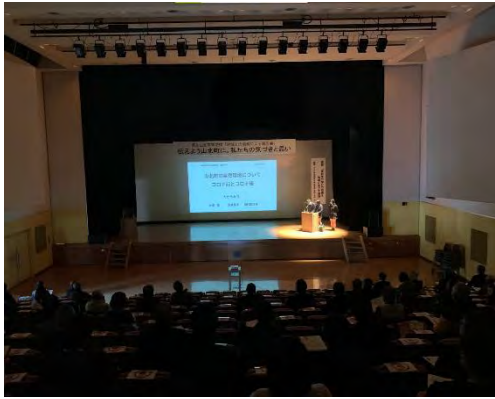
##### ②「山北町の自然環境について、コロナ前とコロナ後」

新型コロナウイルス流行による山北町への影響について、町への取材を通して調べた。すると、バーベキュー後のゴミ残しが増加していることが分かった。そこで、「Go To 山北」という政策の提案をした。山北町でバーベキューをして、ゴミを持って帰れば割引されるという制度で、この仕組みがあれば環境保全をしつつ、山北町に観光客を呼ぶことができるのではないかと提案した。

##### ③「ツリーハウス」

山北町の豊富な山林を生かして、ツリーハウスを作れないかと考えた。そこで、クラウドファンディングを生かして資金を集め、ツリーハウスを実際に山北町に作り、観光客を呼びよせることを提案した。





カ 成果及び評価

代表生徒はこの日までに何度も発表の場があり、当日の発表も非常に落ちついて発表することができた。山北町民が多く訪れており、高校生ならではのユニークなアイデアに好意的な意見が多く聞かれた。また、山北町の町議会議員や町長も発表会を聴講しており、生徒たちは自らが考えた政策について直接提案することができた。

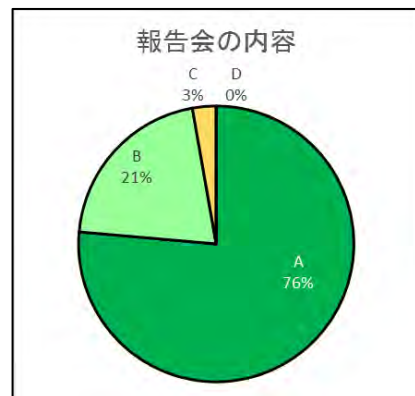
キ 参加者のアンケートの結果

(山北町よりご提供)

a アンケート回答数と年齢別人数

※受付参加者数は 105 名

年 齢	人数(人)
19 歳以下	0
20～39 歳	14
40～59 歳	29
60 歳以上	30
合 計	73



b 居住地

地域	人数(人) ※ (20~39歳・40~59歳・60歳以上)
山北町内	49 ※ (4・19・26)
南足柄市	3 ※ (0・2・1)
中井町	1 ※ (1・9・0)
大井町	0 ※ (0・0・0)
松田町	3 ※ (1・1・1)
開成町	6 ※ (2・3・1)
その他	11 ※ (6・4・1)

c 報告会について

① 報告会の内容

項目	人数(人) ※ (20~39歳・40~59歳・60歳以上)
A とてもよかった	55 (11・21・23)
B すこしよかった	15 (3・7・5)
C あまりよくなかった	2 (0・1・1)
D 全くよくなかった	0

② ①の回答理由

《20～39歳》

- A** ・ 町内外の生徒さんが山北町のことを自身のことのように考えてくれ想像力を働かせて様々な案を提案してくれたこと
- ・ スライドを上手に使っていた。
  - ・ 議会向けに発表した時より発表も伝わりやすく内容の提案もより具体的になりよかった。
  - ・ 高校生が自信を持って報告発表する姿に感動しました。また先生方の意識・意欲の高さに感心させられました。
  - ・ 高校生としての視点は大人では気がつかないようなアイデアがあり素晴らしかった。
  - ・ 年間を通して研究を重ねてきたことがよくわかるプレゼンでした。とてもよかったです。
  - ・ 生徒の発表が上手でがんばっていることがわかる報告会でした。
  - ・ しっかり町の特徴を捉えた報告であり、高校生の視点での気づきがよかった。
  - ・ 高校生の視点で感じたことアイデアが盛りだくさんであった。何よりプレゼン力、素晴らしかったです。山北町で近い将来力を発揮していただきたいと心から思いました。
  - ・ 内容もしっかり調べられていて、とてもよかった。ぜひ、ツリーハウスを山北につくってほしいと思う。
  - ・ 自分たちで考えどう行動したらよいかなど、アピールの仕方がとてもわかりやすかったです。
- B** ・ 高校生ならではの視点でよかった。発表したことを町の人が実際に聞いて、町の人々の素直な意見を聞き、内容を修正していく活動をする、内容が深まっていくと思う。
- ・ よく調べられたと思いました。

《40～59 歳》

- A** ・ 自然を生かした新たな取り組み、SNS の活用による若者ならではの発想が素晴らしいと思った。
- ・ 高校生が自分の思いを自分なりの言葉で伝えていることに感激しました。普段うかがうことができない高校生の話を聞いたことがよかったです。
  - ・ 山北町在住ですが、町外の、しかも学生さんからの視点で改めて山北町を知る機会を与えてもらったこと
  - ・ 発表者の高校生が、それぞれ考えて発表している様子がよかったです。行政の人たちの前で発言できたこともよかったです。
  - ・ 高校生という若い世代の発想による活性化事業の提案
  - ・ 山北町をよくするためにいろいろ調べ、発表も聞きやすかった。
  - ・ 高校生が地域について考えるだけでもすごいことと思う。それだけでなく行動し発表に至るまでの時間に感銘を受けた。
  - ・ 高校生が地域活性化のために調べたり考えたり、そして提案をし、とても感心しました。
  - ・ 若い世代からのいろいろな意見・考え方を聞くことができたのがよかったです。
  - ・ 高校生の自由な発想に刺激を受けることができたから。
  - ・ 生徒たちの探究心の素晴らしさと町への愛情を感じました。
  - ・ よく考えて課題を捉えている内容だと思います。また、解決策についてもよくまとまっていると思います。
  - ・ 高校生らしい報告内容になっていた。よく調べられていたから。
  - ・ 学生の素直な意見を聞くことができました。
  - ・ 山北町の抱えている問題を、若い世代の子がよく直視している点。
  - ・ 高校生らしい視点で、山北町の課題を考えていたから。
- B** ・ 町内の現地に行き、調査しているところ
- ・ 素晴らしい報告であったが実現させるための方法についてももう少し何かあったらよかった。
  - ・ 地域のことを研究していることがわかった。
  - ・ ツリーハウスは費用や場所等具体的に現実的であり提案を受け入れやすいのではと感じた。
  - ・ 山北高校がある山北町に対して、若い世代から興味を抱かれるようになっている。
- C** ・ 発表したことに対して、受けた意見（これをどう受け入れるか・受け取るか）をもとに修正発表させていく余地あり。発表を、まとめでなく次への節となるようにする。

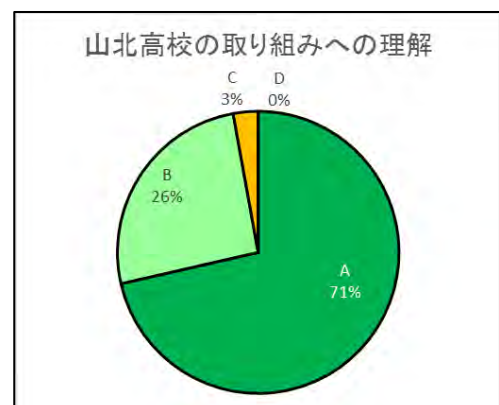
《60 歳～》

- A** ・ 山北を外から見れる・見られるよい機会になっていた。
- ・ 高校生の目線が様々であり、多様性がよかった。
  - ・ ①高齢者も当たり前スマホを持つべきだと思っているから共感した。
  - ・ ②自発型授業と組み合わせると面白いと思ったから。
  - ・ ③キャンプ地利用者のフェアな負担でよいと思った。
  - ・ 自分の課題として捉えていた感じがする。
  - ・ プレゼンスキルが高まってよい体験をされていることを見せていただき、清々しい時間でした。

- ・ 町役場等へ直接行き、また現地を調べ町を知ってもらいありがたいと思いました。
- ・ 高校生でありながらこのようなことを考えている生徒がいたことが知れたこと。
- ・ どれも具体的提言があった。丸山町有地利用など実現性が高く、町としても実現に推進していただきたい。
- ・ 若者たちの視線でいろいろと考えて、これからの山北の発展に役立ったと思う。
- ・ 実際にフィールドワークを重ねてがんばってこられたのが、とてもよく伝わりました。
- ・ よく調べてあり、内容もよかった。
- ・ 町内の自然を生かす提案であり、山北ならではの提案であった。
- ・ 具体的な課題を見つけ解決策を提案し、非常によくできている。今後は、行政が高校生の提案を取り入れ、町づくりを進めるよう支援したい。
- ・ 発表のスキルの向上が見てとれた。継続は力なりを実感しました。
- ・ 生徒も伸び伸びとプレゼンしていた。
- ・ 自分で考えて行動し、自分の考えをまとめて表現できることはとてもよいですね。
- ・ 高校生らしい探究がよかった。
- ・ 高校生らしい発想で、説明の仕方も簡潔でわかりやすかったです。自信を持って発表する様子に好感が持てました。
- ・ 生徒が自分で課題を見つけ関上げていく体験はとてもよいと思う。また、まとめて発表することは大変だったと思う。
- 自らの探究したものを発表し、町の方にも聞いてもらえる場があることはよいと思います。
- ・ 浅く広い知識を皆さんが持っていることはわかりました。広くなくてもよいから、一点深探りをしてほしい。
- ・ 第1部の時間が短く、もの足りなかった。
- ・ 提案内容に深度（具体的な対応について）の差が大きく、提案内容により、検討・研究がさらに必要と思えたから。
- ・ タイトルの実現について、町政の具体的予算措置にどの程度実現可能性が不明。
- 無評価 高校生の新鮮な考え方に興味を覚えました。

### ③ 山北高校の取組への理解

項目	人数(人)※(10~30歳・40~50歳・60歳以上)
Aとても深まった	50 (8・19・23)
Bすこし深まった	18 (10・7・6)
Cあまり深まらなかった	2 (0・1・1)
D全く深まらなかった	0



#### ④ ③の回答理由

《20～39 歳》

- A** ・ 町内にあるものの、正直学校に関する情報は入らないので、今回の取り組みをうかがうことができ、とてもよかった。
- ・ 山北高校のことを知らなかったのが、研究の内容もそうですが、授業の様子も知れました。
  - ・ 先生の報告により、取り組みがより理解できた。今後も継続的に地域探究&発表を行っていただきます。
  - ・ 山北町のことを改めて知る機会となった。自然豊かな山北町の活かし方を知り、今後が楽しみになりました。
  - ・ 町外から来ている生徒さんも山北を知り考えてくれている思いがとてもよく伝わってきました。
  - ・ “当たり前”を見直すきっかけやいろいろな友達の意見にふれることでの発見など、高校生だからこそできる経験につながると感じました。自分の子どもの高校でもこんな取り組みがあったらいいなと思いました。
  - ・ 生徒が探究していく時間があるので、自分がどう思うかだけでなく町の人々の意見を聞き、それをもとに活動していくと、もっと内容が深まっていくと思います。
- B** ・ 各グループの取り組み内容も町に関係性のあることを調べて、インタビューして、と取り組みの姿勢がよいと思いました。
- ・ 探究的な学習で学んだことは、社会生活・私生活でも大変重要であると思うため。
  - ・ 時間の都合もあり、発表数が少なかった。詳しい内容をもっと聞きたかった。
  - ・ 関心は深まりました。今後がんばってください。

《40～59 歳》

- A** ・ 地域との協働による課題解決に向けたカリキュラムに大変興味がわいた。他チームの成果も聞いてみたい。
- ・ 実現できたら町づくりに成果のある取り組みの提案でした。
  - ・ 視点の気づきに新鮮さを感じた。
  - ・ 今回の発表された内容を、今後も具体的にしていきたいとのことなので期待しています。
  - ・ 普段から自分の住む町について考えることは多くあるが、ああだこうだと言うだけで解決には至れない。今回の発表は参考になると思う。
  - ・ 意外な視点からの発表があり、いろいろな部分での考えを知ることができた。
  - ・ 町に県立高校のあることの素晴らしさを改めて実感しました。より密に連携を深めるべきだと思います。
  - ・ 山北町に対する生徒さんの思いが感じられる発表であったと思います。
  - ・ 高校生に探究の様子がよく見えた。
  - ・ 年齢からすると人前で発表することを避ける年頃だと思っていましたが、そんなことなく発表している姿は立派でした。
  - ・ 高校生が自分の関わる町に目を向けて考え学ぶ取り組みが伝わりました。
  - ・ 町外に住む生徒が山北町のよい所を、町民以外の目線で考えているところ。
- B** ・ 高校生活の中で、すでに地域について考え、他方面の人々と関わることは、社会に出ていく

上で役に立つ。

- ・ プレゼンテーションをこの年代から経験をして、とてもよいことで、うん年後、社会や上の学校に行ったとき役に立つと思いました。
- ・ 地域と関わる力、携わろうとする若い力を、発表を通して感じました。
- ・ 今後の社会経験に生きてくると思う。
- ・ 1年間だけでなく、数年間活動をしている。

無評価

- ・ テーマによる生徒たちの取り組みということもあり、もともと関心はあったが会場内で自ら発表することもあり、良い内容と思った。

《60歳～》

A

- ・ 進学校として考えていた。よって地域より勉学1本では。この誤解が解消された。継続した取り組みを期待する。
- ・ 山北町の魅力を感じての提案、ありがたかったです。住民もポジティブに魅力を受け入れて、よい町にしていこうと思われました。
- ・ 陸上部の練習で町内を走り、少子高齢化である町を知り、活性化しようと取り組んでいただいたこと、感謝いたします。
- ・ 何も知らなかったから。
- ・ 山北も少子高齢化が進み、空き家対策にも歯止めが止まらず心配になることに悩む。
- ・ GOTO 山北、グランピングなど、実現できるとよいと思います。
- ・ 3年間を通し、山北を知ること、課題を探り解決に向け提案されていて、これからもどんどん地域に関わっていただきたい。
- ・ 外から見た山北町の現状が、高校生の言葉で伝えてもらったのが貴重である。実現性を一緒に探っていきたい。
- ・ 山北町への提言等、参考にしなければならない内容であった。
- ・ 今後の活動が楽しみです。いろいろな分野での話を聞きたいです。
- ・ これからも続けていって、1年生などに伝えてほしい。
- ・ 高校生の取り組みを周りに発信することができたのではないかと思います。
- ・ チームを組んで探究してきたこともよかった。
- ・ 地域社会に高校生が関心を持ったこと。共生・共育の一步となる。
- ・ 実際に行っている内容が具体的に説明されていたから。
- ・ 普段は東山北駅で高校生の顔を見るだけ。スローガンと共に。
- ・ 今後も研究が進み、新しい発想を積み上げ、提言してほしいと思います。

B

- ・ 神奈川県（行政としての）や教員のサジェスチョンが、多大な影響を与えているのが理解できました。
- ・ 生徒一人一人がテーマを持ち、活動している姿がよくわかりました。
- ・ 山北町で何ができるか、高校生が何に注目しているかがわかりやすかった。

◇報告会や山北高校への感想や意見等

《20～39歳》

- ・ コロナ禍での情報収集等大変だったと思います。若い方の若い目線で山北の問題に取り組む姿勢はとても頼もしく思えました。現代では、その日その日に精一杯になりやすく、なかなか未来



に目を向けることや想像力に欠けてきているように感じます。高校生の活力に期待するとともに、大人もがんばらなきゃいけないと刺激をもらえました。ありがとうございました。

- ・ 報告の内容をどこがどのように実現できるのか。実現できるように動いていけるとよいと思う。
- ・ 浦崎先生の講演も素晴らしかったです。
- ・ 皆さんの堂々とした姿に感銘を受けました。子どもたち一人ひとりのよさがよく見られました。様々なことに疑問を持てるようになったという言葉が印象的でした。とてもよい場に参加させていただいたことに感謝いたします。今後の山北町・高校生を大切にしたいと思います。
- ・ 幼稚園と山北高校の交流を見させていただき、山北町の幼児にとっても非常によい刺激であり、地域との関わりの経験になると改めて感じました。高校生の素晴らしい力、今後ともよろしく願っています。ありがとうございました。
- ・ 各グループ発表が素晴らしく、何よりプレゼン力の高さに驚きました。山北町の自然を活かした提案や課題解決までよく調べ、自分の意見が入っていて、今後の山北町で実現できるようになればと思いました。
- ・ 素敵な発表をありがとうございました。
- ・ 高校生と町の人と一緒に活動していく様子が見たい。高校生が山北町のためにできることを考え実現できたら良い。→コロナ禍だけど、現地に行って実際に現状を見る。
- ・ この取り組みを行って、自分の夢ややりたい職業に変化はありましたか？
- ・ 報告会を何回も行っているところが理由なのか、発表のスキルや受け応えがとても上手だった。生徒の成長につながっている気がする。実際の活動に移せるようにしてほしい。
- ・ プログラムに時間も記載していただけるとより丁寧になると思います。
- ・ 高校生の発表は、生徒の皆さんが堂々としていて、内容もさることながらプレゼンテーションの実力が素晴らしかった。町に今回の提案を託すと限界があり、機動性を持ってできないため、今回のような提案～実施までを実現化できるとよいと思いました。第2部が少し長く感じた。
- ・ いろいろな多くの方に聞いていただいたほうがよい内容なので、「平日に1回で終わり」でなく、発表内容を見られる形で残してほしい。(動画・プレゼン資料を紙で等) 当日、高校生の発表資料を来場者に配付してほしい。大正大学の教授のはあるのになぜ？

#### 《40～59 歳》

- ・ 第1回を皮切りに、第2回、第3回とぜひ続けてください。できたら、他のチームの発表も機会を見つけて聞いてみたいです。フィールドワークなど、地域住民の積極的な参加も必要であると感じました。応援しています！がんばってください。
- ・ 地域の中にある高校なので、町とのつながりを大切にしてほしい。
- ・ 最初の発表をした方に質問ですが、山北町に高齢者が多いので SNS 自体を知らない人が多いと思います。逆に SNS を使っている少ない人口が発信しただけでも、多くの人々に届けられるのでしょうか？そのへんもふまえて今後の探究に挑んでいただければよいと思います。ゆりかごの話はかわいかったです。
- ・ 本日はお招きくださりましてありがとうございます。プレゼン楽しく拝聴いたしました。地元企業をクライアントに迎え、企業案件をいただきながら具体案をプレゼンできるように、次のステップは実現できるとよろしいかと存じます。役場の方は、そのまとめ役を担っていただきたく存じます。山北町の今後ますますのご発展を願っております。

- ・ 高校生へ。引き続き山北町に対して興味をもってもらいたい。(卒業後も)
- ・ 堂々と発表されている姿がとてたくましく思えました。これからの成長も期待しております。人のための町であってほしいと強く思いました。
- ・ プレゼンをする、計画を立てるなど、いろいろな苦労があったかと思いますが、すてきな発表になっていたと思います。これからのいろいろな視点での考えを深めていってくれたらと思います。
- ・ 3つのプレゼンでしたが、もっと他の発表も聞いてみたくなりました。
- ・ バーベキュー & グランピングと GOTO 山北は一緒に実現するとよいと思います。特に GOTO 山北は町の財政拠出が必要ないので、素晴らしいと思いました。
- ・ 今後も継続して実施していただきたいと思います。
- ・ すてきな発表でした。次回も・・・。
- ・ マイプロジェクト、私も発見したいと思いました。
- ・ 素敵な取り組みだと思います。お互いの力になり得るといいですね。
- ・ 質疑応答では、代表の生徒さんだけでなく、複数の生徒さんの声を聞きたかった。
- ・ 伝統ある県立高校として、今後も山北町と連携して取り組んでほしい。
- ・ 高校生の出番をもっと増やしては？受付・発表・進行・あいさつ（主催は山北町かも知れないが）＝この会自体もつくる一員として。地域とつながる一歩か？講師（講演の方の）のいうアクションを聞きたい。
- ・ 山北探究など継続し、よりよい報告会を楽しみにしています。

#### 《60歳～》

- ・ 素晴らしい発表、感動しました。今日の中身を町の今後の発展に活かされることを願うところでもあります。発表、また探究された生徒の中で、何人くらい山北町に住んでみたいという考えに変わった人がいるのでしょうか。一人でも多いこと、期待するところです。
- ・ 探究の授業を取り入れられたのは、社会とつながり、地域を比較し、地域の将来を自分事として考えることが必要な能力として身に付けることの必要性・重要性から、カリキュラムに入ったと聞きます。18歳成人をむかえるため、今後もこのような（これで終わることなく）地域を考える考え方を身に付けてほしいと思います。山北町にとって、高校があることは重要です。連携、お願いします。
- ・ 災害時など大変つながり深いと思います。今後も町を知っていただきたいと思います。私も自治会の役をやっています。この報告の話を、おりをみて話していきたいと思います。
- ・ 私自身、山北町に移り住んで27年になりました。横浜とか都内に暮らした経験から、何もないからこそのよさについても考えてほしく思います。同じように、少子高齢化はマイナスだけでしょうか？今まで、1年間相模原に勤め、松田で電車に乗ろうとすると、線路に入ったシカのために遅れているとか、山北町についた途端にしかの鳴き声が聞こえてくるとか、素敵すぎると思っています。高校生のみなさんはアベンチャーズ（注：映画のヒーロー集団）なのか、絶滅危惧種ではあるまいか？
- ・ 若い者はいいなあ。町の反応が楽しみです。
- ・ 若い高校生が山北の心配事を代表して発表してくれたことに感謝する。私たちも気を入れ直して考えていく気持ちになった。

- ・ 18歳が成人になるということで、高校生生活はより社会人としての意識をもってがんばっていただきたいと思います。
- ・ 地元で自慢できる高校があり、うれしい。
- ・ 若い方々の柔軟な発想は、町づくりにおいて大変刺激になります。これからもいろいろな場面で交流の機会を持ち、フランクな関係が築けたらと思います。また、よいところも悪いところももっともっと山北町について理解を深めていただきたいと思います。
- ・ 山北町は高齢化が進むとともに、面積の90%以上が山林となっており、近隣の市町に比べ定住人口増加が進んでいません。若い高校生から山北町の将来の発展につながる提案をいただきたいと思います。今後も地域魅力化型の活動を継続してください。
- ・ 発表の機会を継続的に行ってほしい。探究に町役場をもっと求めてほしい。
- ・ 高校生の積極的な取り組みに感心しました。今後とも山北町の活性化に対して活動していただきたいと思います。一緒に活動していきたい気持ちになりました。ありがとうございました。
- ・ 継続していくことで、地域を好きになってほしい。
- ・ 山北町の人口減少を少しでも食い止めるためにも、こうした取組を続けていけるとよいですね。
- ・ 高校生が「企画した」「案内する」「作った」などは一番受けます。もっと高校生を活用できるとよいと思います。
- ・ この取り組みは続けてほしい。今の子供たちには、学際的な思考を身に付けさせることが必要。
- ・ 普段、スポーツも含めて学校生活を楽しんでいる様子が感じられています。地域でのあいさつのよさも感心しています。生徒の今のよき雰囲気を持続していただきたいと思います。
- ・ 通学の利便性を図るため、東山北駅ホームの上屋設置とトイレ設置を町を通じて運動したら。東山北より利用者の少ない山北と比較し見劣りする。少子高齢化は止められないが、山北高校への進学希望者の確保のため。山高生は山北町住民が少ないが、浦崎氏は認識しているか。
- ・ みんなよい子すぎる！もっととんがりましょう！看板に礼をしなないでください。（大人がいけないよね。）
- ・ 校内だけの発表会にとらわれず、校外での発表は生徒一人ひとりの向上につながる活動であり、今後もぜひ続けてください。
- ・ 山遊びのエリアとして取られているようですが、山北での生活が活性化するような、何か（テレワークを含む）山北でのライフスタイルの提示がほしかった。電動自転車で仙石原の温泉や中川の温泉に行くライフスタイルとか、まきストーブライフスタイルとか……。なにか住みたくなるような提案があればと思った。講演の先生の話は大変参考になりました。

## IV 三年間の研究開発実施効果と評価

## 1 研究開発目標の効果と評価

### 目標（１）「山北高等学校を中心に、行政・町民・企業が一体となる」ことについて

#### ① 進捗状況

- ・ 町の広報誌に山北町と関連する事業及び研究成果発表会を掲載した。（令和３年５、９月号、令和４年２月号）また、活動内容を広報するため「学校だより」を作成し、町内全自治会に回覧（計２回）を実施した。
- ・ 山北町議会事務局により、授業及び発表会を御参観いただき、町会議員に生徒の活動内容を紹介するとともに、取組の概要を説明し、事業についての理解を深めていただいた。
- ・ 山北町都市農村交流活性化推進協議会は、１学年フィールドワークについて、コース設定のアドバイスや説明への協力人材の紹介などを行い、高校との連携協力体制が確立、今後のフィールドワークについても協力を得られることになった。

#### ② 成果

- 令和４年１月１４日に開催した山北町への政策提言の「報告会」の際、傍聴者にアンケートを実施した結果、この報告会について「よかった」と回答した人は９７％、この機会に山北高校の取組への理解が「深まった」と回答された人も９７％と、大きな成果となった。「高校生としての視点は大人では気がつかないようなアイデアがあり素晴らしかった」「高校生が地域について考えるだけでもすごいことと思う。それだけでなく行動し発表に至るまでの時間に感銘を受けた」など、肯定的な意見が大半を占めたことで、生徒の探究的な学びへの意欲がより高まると考えられる。

#### ③ 評価

- **目標設定シート**（p125 - 126）の１アウトカムのa-2つ目：「身近な人や地域の取組に関わり、協力することができる能力」という項目に「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合は、目標の８０％を達成し、その値を維持している。３年間の取組、特にフィールドワーク等によって、この力を定着させることができたと考えられる。a-3つ目：「幅広い年齢の人々と関わり、多様な考えを尊重し、思いやることのできる能力」については、高い目標に対して近い数値を維持しており、本事業における取組、特にフィールドワーク等によりほぼ達成できた。

### 目標（２）「『未病』、『地域防災』の２つの視点で、PBLを活用した『個人の成長』を求めるカリキュラムの開発研究」について

#### ① 進捗状況

- 「未来探究」をベースに授業リンクさせている「未病」「地域防災」を中心とした探究活動を行った。研究成果発表会では、他学年の探究活動の状況を知り、外部の方からの講評を得ることもできた。さらに、これまでの山北高校における教育課程の実施状況を評価し、その改善に必要な人的又は物的な体制の確保と、この取組を組織的に計画・改善し、学んだことを地域社会へ還元する実地的な活用を図ることができた。

#### ② 成果

- 教科等の枠を超え、「未病」「地域防災」というテーマが探究的な学びのひとつのきっかけとなり、生徒の視野が広がり、多角的な視点や批判的思考力を身に付けることができた。
- ・ 複数の教科、科目で実施している授業内容と関係する場面も多くあるため、教科等横断的な学習

の取組に連結することもできたことが、教職員対象に行った授業改善アンケートから明らかになった。また、『個人の成長』という点では、外部の人材も含めた研修会や公開研究授業、研究成果発表会等の企画立案・運営を通して、教職員が学ぶ機会も多くあった。

### ③ 評価

- 生徒が自らの考えを論理的に構築する探究活動により、主体的・協働的に取り組む学習を推進し、課題解決能力や自己肯定感を育むことができた。生徒の興味・関心により選択の幅を広げ、地域のあらゆる課題を探究テーマと考え、地域探究と地域貢献の2つについて地域の防災・健康・産業・文化に関する調査発表を行った。山北町でのフィールドワークや外部向け発表会など、外部とのつながりの中で探究活動を進めていき、あらゆる視点から地域を元気にする方策を考え山北町への政策提言を行うことができた。今後はこれまでのこの取組成果を、他校へ広げていくことが課題になっていく。探究的な学びを通して、高校生「意欲・価値観・学力」を育み、知りたいことや解決方法に近付ける力や、難しい課題の解決に挑む力を養い、生徒本人が将来生活する地域での地域政策や地場産業の担い手として、“地域の為に”や“社会の役に立つように”という意識をもって日々を過ごし、地域活性化をサポートする最前線で町づくりに関わっていくことを期待したい。
- **目標設定シート**の1アウトカムのa-1つ目：「身の回りにある課題を発見し、その解決に向け、取り組むことができる能力」という項目に「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合は、開始当初の43.5%から確実に数字を伸ばし、75.2%まで上昇した。取組を継続していくことで、さらに成果の向上につなげることができると考えられる。

## 目標（3）「Uターンを含めた地域で活躍し、地域を創生する人材の育成」について

### ① 進捗状況

- 町の魅力や歴史について、町や協議会と協力して授業を展開した。
  - ・ 1学年は、年度初めに山北町を散策し、河村城址など、町の歴史について感じる事ができた。また、西丹沢ビジターセンターを訪れ、山北町の産業に触れることができた。
  - ・ 令和4年1月14日に、山北町への「政策提言」を行った。発表者は、山北町の住民や山北町役場の職員が、高校生の活動に対し、期待をもっていることを感じ取ることができた。

### ② 成果

- 地域についての理解
  - ・ 実際に地域に足を運ぶことで地域への理解が深まり、その中で発見した地域課題に対して、高校生の視点からの解決策を提案することができた。町の病院施設やインフラ、防災に関する内容など、中には町議会議員から好評を得たものもあり、実際に町の活性化に貢献できる可能性が十分にあると考えられる。
  - ・ 活動制限をせざるを得なかった状況下でも、生徒たちはフィールドワーク等を通じて山北町の人々や生活、産業などへの理解を深めることができた。そのうえで、生徒がより具体的に自分のできることを考えることができた。

### ③ 評価

- 進路学習との連携による地域を創生する人材の育成
  - ・ 地域探究活動の中で、生徒の山北町への関心が高まったと捉えているが、今後、地域への愛着を

さらに育み、生徒が実際にキャリアを考えるうえで、山北町で就職したい、起業したいと思うなど、より具体的な成果が生まれるような取組に発展していくことが必要である。

- ・ 連携や探究活動を山北町だけではなく、足柄上地区へと対象地域を拡大し、支援を含めた協力体制を構築していくことが必要である。
- ・ 地域の中学生、高校生を中心とした世代は、東京や横浜など都会への憧れがあり、都会での進学や就職を考えていると思われる。そのため本校の取組は、中学生にはその魅力が十分には伝わっておらず、入学志願者の増加に繋がっていない。本校の取組と地域への愛着について、いかに効果的に広報していくかが課題である。
- ・ **目標設定シート**の1アウトカムのb-2つ目：「山北町に関係する就職を希望する生徒の割合」について、ほぼ目標を達成している。この項目については、本事業以外の社会的な要因も大きく影響していると考えられ、今後も推移を見ながら、取組を工夫していきたい。b-1つ目：「山北町での生活を希望する生徒の割合」についてもほぼ目標を達成している。この項目については、2019年度の本事業対象生徒以外の数値との差に着目すると、本校生徒の山北町への思いの変化を実感することができる。また、本事業以外の社会的な要因が大きく影響していると考えられ、今後も推移を見ながら取組を工夫していく。

#### **次年度以降の課題及び改善点**

- ・ 生徒の取組が卒業後も継続していくよう、今後は学年を超えた授業展開の構築を研究する。
- ・ 「未来探究」を核に据えた教科等横断的な学習活動の推進が求められる。
- ・ 今後、地域や企業とどのように関わっていくことが可能かを検討する。以前から、地域美化活動、小学校・中学校との交流、町の行事への参加などを行ってきたが、今回の事業により、これまでは交流のなかった団体や地域とのつながりを広げることができた。山北町や地域住民が学校に、学校が山北町や地域住民に、それぞれ何を求め実現できるかを追求し、相互の一層の協力関係を継続的に築き上げていく必要がある。
- ・ **目標設定シート**の1アウトカムのb-3つ目：「山北町に貢献することを希望する生徒の割合」については、本事業を開始してすぐに目標値を達成しており、町の人々や、議会に関わる人との交流を通して、生徒たちの町への貢献意識が高まっており、生徒の今後の活躍に期待できる。
- ・ 本校の伝統を活かし、かつ、今回の事業の継続で、「スポーツの山北」と「探究の山北」の二本柱で、生徒のよりのびやかな成長を支えていきたい。

## 2 地元への興味・関心及び探究的学びに関するアンケート調査

2019(平成 31)年度入学生を対象に、「地元への興味・関心及び探究的学びに関するアンケート調査」を継続的に行っている。地元への興味・関心に関する項目では、肯定的な意見が微増し、特に「山北町のことが好き」と答えている生徒が7割近くになっている。また、探究的学びに関する項目では、3年間の取組による自信の表れもあり、全ての項目で肯定的意見が増加している。

項目	肯定的意見			否定的意見			未回答		
	2020年 2月	2021年 2月	2022年 2月	2020年 2月	2021年 2月	2022年 2月	2020年 2月	2021年 2月	2022年 2月
地元(山北町)への興味・関心に関する項目									
山北町のこと(自然・文化・歴史・産業・地域活動など)について、興味や関心を持っていますか。	53.5%	51.8%	56.8%	37.4%	40.2%	37.0%	9.1%	8.0%	6.1%
山北町の抱える課題について、感じたり、考えたりしたことがありますか。	61.1%	65.3%	66.4%	29.8%	26.7%	27.5%	9.1%	8.0%	6.1%
山北町をよりよくするために、山北町の問題解決に関わりたいと思いますか。	57.1%	56.8%	55.4%	33.8%	35.2%	38.6%	9.1%	8.0%	6.1%
家族や友人以外の山北町の人と交流したことがありますか。	40.9%	34.7%	46.2%	50.0%	57.3%	47.7%	9.1%	8.0%	6.1%
山北町で生活したいと思いますか。	18.7%	21.1%	25.4%	71.8%	70.9%	68.5%	9.6%	8.0%	6.1%
山北町に関する仕事や職業に就いてみたいと思いますか。	16.7%	20.1%	22.8%	73.7%	71.9%	71.1%	9.6%	8.0%	6.1%
山北町の役に立ちたいと考えていますか。	58.6%	52.7%	51.3%	31.8%	39.2%	42.6%	9.6%	8.0%	6.1%
山北町のが好きですか。	62.6%	61.3%	67.0%	27.3%	30.1%	26.9%	10.1%	8.5%	6.1%
探究的学びに関する項目									
自分の関心のあることについて、自主的に知ろうとしたり、やってみようとしたりしますか。	64.7%	67.9%	76.2%	25.3%	24.1%	17.7%	10.1%	8.0%	6.1%
身の回りにある課題を発見し、その解決に向け、取り組むことができますか。	61.1%	64.9%	74.6%	28.8%	27.1%	19.3%	10.1%	8.0%	6.1%
自分の立てた目標の達成に向けて、計画的に取り組むことができますか。	63.2%	65.4%	73.1%	26.8%	26.1%	20.9%	10.1%	8.5%	6.1%
今までに身の回りにある課題の解決方法について、自ら考え、行動し、解決したなどの経験はありますか。	67.7%	68.4%	77.2%	22.2%	23.6%	16.3%	10.1%	8.0%	6.6%
グループなどで協力しながら、学習や活動を行うことができますか。	78.3%	83.4%	85.3%	11.6%	8.5%	8.6%	10.1%	8.0%	6.1%
身の回りのことがらに関心を持ち、身近な人々や地域の取組などに関わったり、協力したりすることができますか。	72.8%	79.4%	83.2%	17.1%	12.5%	10.1%	10.1%	8.0%	6.6%
幅広い年齢の人々と関わり、相手の意見や考えを尊重し、思いやりを持って接することができますか。	79.8%	82.4%	84.2%	10.1%	9.5%	9.6%	10.1%	8.0%	6.1%
これまでの学習活動において、課題の設定・情報の収集・整理や分析・まとめや表現などの活動を繰り返していく学習や活動に取り組むことができましたか。	74.8%	77.4%	84.3%	14.6%	14.0%	9.7%	10.1%	8.5%	6.1%

(4作法によるアンケート調査)



### 3 探究的な学習活動による教育活動全体への影響

3年間の総合的な探究の時間「未来探究」の学習指導を通じて、新たなカリキュラム開発における他の一般教科に与えた影響について

#### (1) 現状と成果

##### ア 授業改善について

授業力向上を目的とした授業改善の取組を毎年度行っている。新学習指導要領でも重要視されている総合的な探究の時間を柱とした教科等横断的な授業展開を次の様に実施した。

##### イ 令和元年度の授業改善の計画と成果

教科等横断的な授業展開計画表を作成し、各月における科目ごとに実施している授業内容を確認することで、その内容に関連させた授業展開を進めることができた。

(例) 現代社会の「人口問題と食料・水資源持続可能な発展」において、数学Ⅰ「命題と集合」で学習した、「AならばBである」に関連させた命題を生徒に考えさせ、その逆と対偶の真偽を考えさせた。SDGsに関わる内容に関連させて未来探究での学習と紐づけ関連させた。

##### ※ 期待される効果とねらい

現在本校で設置している教育課程では実現不可能なカリキュラムも、生徒の実態と学習の原理原則となる基盤を考慮し、教科等横断的な視点で多角的に生徒へアプローチをかけることで、生徒の資質・能力を育成することが期待できる。

山北高校 1学年 教科横断的な授業展開計画表 ~持続可能な山北町											現代社会	人口問題と食料・水資源持続可能な発展	青ア			
教科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月						
国語総合	国語総合(1)	国語総合(2)	国語総合(3)	国語総合(4)	国語総合(5)	国語総合(6)	国語総合(7)	国語総合(8)	国語総合(9)	国語総合(10)						
現代社会	現代社会(1)	現代社会(2)	現代社会(3)	現代社会(4)	現代社会(5)	現代社会(6)	現代社会(7)	現代社会(8)	現代社会(9)	現代社会(10)						
数学Ⅰ	数学Ⅰ(1)	数学Ⅰ(2)	数学Ⅰ(3)	数学Ⅰ(4)	数学Ⅰ(5)	数学Ⅰ(6)	数学Ⅰ(7)	数学Ⅰ(8)	数学Ⅰ(9)	数学Ⅰ(10)						
化学基礎	化学基礎(1)	化学基礎(2)	化学基礎(3)	化学基礎(4)	化学基礎(5)	化学基礎(6)	化学基礎(7)	化学基礎(8)	化学基礎(9)	化学基礎(10)						
CEⅠ	CEⅠ(1)	CEⅠ(2)	CEⅠ(3)	CEⅠ(4)	CEⅠ(5)	CEⅠ(6)	CEⅠ(7)	CEⅠ(8)	CEⅠ(9)	CEⅠ(10)						
英語表現Ⅰ	英語表現Ⅰ(1)	英語表現Ⅰ(2)	英語表現Ⅰ(3)	英語表現Ⅰ(4)	英語表現Ⅰ(5)	英語表現Ⅰ(6)	英語表現Ⅰ(7)	英語表現Ⅰ(8)	英語表現Ⅰ(9)	英語表現Ⅰ(10)						
体育	体育(1)	体育(2)	体育(3)	体育(4)	体育(5)	体育(6)	体育(7)	体育(8)	体育(9)	体育(10)						
保健	保健(1)	保健(2)	保健(3)	保健(4)	保健(5)	保健(6)	保健(7)	保健(8)	保健(9)	保健(10)						
音楽Ⅰ	音楽Ⅰ(1)	音楽Ⅰ(2)	音楽Ⅰ(3)	音楽Ⅰ(4)	音楽Ⅰ(5)	音楽Ⅰ(6)	音楽Ⅰ(7)	音楽Ⅰ(8)	音楽Ⅰ(9)	音楽Ⅰ(10)						
美術Ⅰ	美術Ⅰ(1)	美術Ⅰ(2)	美術Ⅰ(3)	美術Ⅰ(4)	美術Ⅰ(5)	美術Ⅰ(6)	美術Ⅰ(7)	美術Ⅰ(8)	美術Ⅰ(9)	美術Ⅰ(10)						
家庭基礎	家庭基礎(1)	家庭基礎(2)	家庭基礎(3)	家庭基礎(4)	家庭基礎(5)	家庭基礎(6)	家庭基礎(7)	家庭基礎(8)	家庭基礎(9)	家庭基礎(10)						
社会と情報	社会と情報(1)	社会と情報(2)	社会と情報(3)	社会と情報(4)	社会と情報(5)	社会と情報(6)	社会と情報(7)	社会と情報(8)	社会と情報(9)	社会と情報(10)						
未来探究	年間を通じて、教科横断的な探究活動の実施															



ウ 令和2年度の授業改善の計画と成果

令和元年度に引き続き、教科等横断的な授業展開計画表を作成し、各月における科目ごとに実施している授業内容を確認することで、その内容に関連させた授業展開を進めることができた。

エ 令和3年度の授業改善の計画と成果

新学習指導要領にて設定された総合的な探究の時間において、思考力育成のための「考えるための技法の活用」①～⑩について、各科目の授業内にて計画的に取り入れることができる授業展開を検討した。

思考力育成のための「考えるための技法の活用」

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| ① 順序付ける         | ⑥ 理由付ける（原因や根拠を見付ける） |
| ② 比較する          | ⑦ 見通す（結果を予想する）      |
| ③ 分類する          | ⑧ 具体化する（個別化する，分解する） |
| ④ 関連付ける         | ⑨ 抽象化する（一般化する，統合する） |
| ⑤ 多面的に見る・多角的に見る | ⑩ 構造化する             |

（新学習指導要領「総合的な探究の時間」解説編より抜粋）

対象を何らかの視点に基づいて分類し、気づきを得たり理解を深めたりするという思考が行われていることについては、各教科で共通している。それらを各教科科目から集めて一覧表を作り共有した。

思考力育成のための「考えるための技法の活用」について

教科	科目	学年	思考力 選択項目	授業で活用する場面
国語	国語総合	1	⑥理由付ける	文学作品において、ある描写の理由を考察したり、評論において、ある主張の根拠を見つけたりする。
公民	現代社会	1	⑥理由付ける	日本で保障されている権利が日本国憲法の何条にあたるのか根拠づけながら日本国憲法の内容について体系的に学ぶ
数学	数学Ⅰ	1	⑦見通す	2次不等式においてグラフを視覚化して判別式や不等式の解法などを理解させる。
理科	化学基礎	1	⑦見通す	化学反応式をもとに、反応物の物質質量から生成物の物質質量を推測する。
保健体育	体育	1	⑤多面的に見る・多角的に見る	各種目の特性を理解し、技術向上や試合に勝つための方法を複数の角度から考え取り組む
保健体育	保健	1	⑥理由付ける	感染症などの広がり理由付けしたり、原因の追究をしたりし、理解につなげる
英語	コミュニケーション英語Ⅰ	1	④関連付ける	教科書で学習した文法や語法をALTとの授業に関連付け、実践的な英会話の場に活かす。
英語	英語表現Ⅰ	1	④関連付ける	中学での既習事項を高校英語に関連付け、基礎事項を応用させる力を身につける。
家庭	家庭基礎	1	④関連付ける	見えないお金の使い方を知り自分の生活と関連付ける。

※ 期待される効果とねらい

科目の異なる複数の授業において、①～⑩に関連した思考力を高める授業を展開することで、生徒の中で様々な科目に渡ってネットワーク化され、課題解決したことが活用できる教科等横断的な取組に連結が期待できる。

(2) 評価方法について

未来探究の評価方法として主にルーブリック評価を活用した。設定した評価規準の実現状況を測るため、生徒に課題（パフォーマンス）を与え、その内容の分析をもって評価を行った。レポートや実技試験などで、事前に評価規準を決めて評価するために評価基準を観点と尺度からなる表として示した。特にルーブリック評価では、具体的な基準を事前に生徒に示すことで、生

徒が「主体的」に課題に取り組むなどの変化が生まれ、教員が対話的な学びへの工夫をするようになるなどの変化も期待でき、他の教科科目でも実施することができた。

(3) 今後の方向性

令和4年度は、本事業の完成後の初年度となり、これまでの成果を形に残せるような事業展開にしたい。また、指定期間を終え、引き続き山北町との関係性を継続しつつ新たなカリキュラム開発に尽力していきたい。

## 山北高校で考えた「探究」

教育ジャーナリスト  
後藤健夫

「生徒の自己肯定感を上げる」

これが山北高校での「総合的な探究の時間」におけるミッションだったのではないか。

教育は豊かに生きるためにある。一方で、社会にはたくさん問題がある。

問題の中から課題を設定したり解明したり解決したり。

この社会や自然は教科で輪切りにされているわけではない。また、課題が整理されて目の前に登場するわけではない。雑多な情報の中から必要な情報を抽出して課題を見出していく。そして、教科の視点や考え方を活用していくと課題がはっきり見えたり課題解決の緒を掴めたりする。

いまや知識爆発の時代だ。世の中にはたくさんの知識があるし、新しい知識が時々刻々登場する。新しい知識を獲得して、既に獲得した知識を再構成して、新しい見方や考え方を獲得することで、課題解決がぐっとやりやすくなることはよくあることだ。

そして学ぶとはそうしたことだ。

探究を学ぶのではなく、探究で学ぶ。

探究は手段であって、目的ではない。

では、なにを学ぶのか。

「学び方を学ぶ」ことを学ぶのだ。

「学び方を学ぶ」方法としての探究。

簡単に言えば「考える方法」を学ぶ。それが探究だ。

誰が「考える方法」なのか。

自らが「考える方法」であるから自分自身だ。

なぜ、探究という方法を使って「考える方法」を学ぶのか。

「考える方法」を知っていれば、より良く学べるから。

技術の学び方を学んでいたら、いま持っている技術が陳腐化しても新しい技術を早く手にすることができる。

知識爆発の時代に、知識が陳腐化しても新しい知識を得ることで、知識を再構成していけばいい。

だから、「学び方を学ぶ」。そのために、探究という方法を使う。

探究という学び方を学ぶわけだ。

探究の学び方とは、自ら考えること。

自ら考えるからこそ「問い」が生まれる。

その「問い」を1人で考えるもいいけど、「問い」を共有してみんなで協働して答えを出そうとすれば、より他面的に、より多くのことを検討できる。

探究は「問い」を重ねていくとうまくいく。

何に「問い」を立てるのか。

身の回りのことでも、夜中に考えるようなことでも、通学の時にふと気になったことでも、なんでもいい。「不思議だなあ」「違和感あるぞ」「これって面白くないか」「他人任せにできないぞ」そんなこと。

普段感じた「不思議」や「違和感」「面白いこと」に「問い」を立てることで、もう一歩「なぜ？」を進めてみる。

そのときに、気づくと思うけど、自ら「考える」ことをしていないか。

「問い」を立てて、その「問い」を考える。「問い」から生まれた新しい「問い」を大切に、さらにその「問い」を考える。

ある程度、考えがまとまったら、自分が考えたことを他の人に話して意見や感想をもらおうといい。他の人に話すと、また新しい「問い」が見つかる。その新しい「問い」を大切に、その「問い」を考える。

こうしたことを繰り返す。

こうして「問い」が「問い」を生む「問いの連鎖」が生まれると、どんどん深く考えるようになる。

だから、どんどん考えていこう。そしてたまに先生や仲間に考えたことを話してみるといい。

「問い」や他の人と「対話」を重ねていくと、自分の意見がはっきりとして、よりうまくまとまる。

教育はなんのためにあるか。それは若者たちが幸せになるためにあるのだ。

だからこそ、当事者性を持って「学び方を学ぶ」ことを、好奇心を持って身の回りのものを観てみたり、好きなことをやりがいにしたり、「これ、おかしい」と思う課題を解決したりして、探究で学ぶ。

自ら考える。

そうした主体的な姿勢こそが自己肯定感を上げていくのだ。

## V 關係資料

## 1 運営指導委員会

### <運営指導委員>

氏名	所属・職	備考
石田 浩二	山北町教育委員会 教育長	関係行政関係機関の長
羽入田 眞一	早稲田大学教育・総合科学学術院教職大学院 客員教授	学校教育に専門的知識を有する者
小村 俊平	岡山大学 学長特別補佐	学識経験者

### <令和3年度第1回運営指導委員会> (記録)

(1) 日時

令和3年7月7日(水)13時30分～15時30分

(2) 場所

山北高等学校 第一応接室

(3) 出席者

運営指導委員

石田浩二、羽入田眞一、小村俊平

山北高等学校

岩本明子、吉野雅史、内藤哲也、大川真弓、小関秀寿、沖津雅俊、山内未来、志村美登里  
神奈川県教育委員会

川端麻穂(司会)、水野禎之

(4) 次第

○ 開会のあいさつ

(山北高等学校 岩本明子校長)

- ・ 本事業により生徒の発信力が4年前本校に奉職していた時と比べ高くなったと感じる。
- ・ 学校教育目標にある5つのCの育成(令和2年度研究開発実施報告書より)は本事業が始まってから若手中心で考えられたもの。中でも convey(伝わる力)に注目している。
- ・ 地域に支えられた学校であり、山北高校の伝統(スポーツの山北、規律を守る)はこれまでの努力により紡いでいる。
- ・ 山北高校の事業は「令和の日本型学校教育」につながるものとする。
- ・ 職員の不断の努力で本事業を作り上げている。そしてこの事業を今後どのようにつなげていくかが課題。

○ 運営指導委紹介及び出席者紹介

○ 委員長選出 羽入田眞一 委員

○ 報告・協議事項

ア 令和2年度の活動状況及び成果について 【内藤教頭】

a 令和2年度の取組について

① 昨年度はコロナ禍のため計画通りの実施は困難であった

- ・ 1学年は初年度の経験を生かして新しい取り組みに挑んだ。
- ・ 2学年は試行錯誤しながら授業を展開した。

- ② 令和2年度1学年の活動について
- ・ 1学年では「山北」「未病」「地域防災」で教員を3チームに分け、オムニバス形式で授業を進めた。  
→ 教員の教材研究の負担が軽減されただけではなく、全担当が全生徒を見ることができ、指導に一貫性がもてた。
  - ・ 特に「山北」の単元ではRESASを活用し、客観的な数値をもとに考える習慣づけができた。
- ③ 令和2年度2学年の活動について
- ・ 2学年では学校設定教科「あしがら」に苦勞した。評価をする際には5Cを意識したルーブリックを作成し、5段階評定を行った。
- ④ フィールドワークについて
- ・ 1学年は初年度を踏襲した形で山北町を知るというフィールドワークを行った。  
(令和2年度研究開発実施報告書 pp. 42-46)
  - ・ 2学年はそれぞれの課題に対して訪問先を選びインタビュー調査を行った。  
(令和2年度研究開発実施報告書 pp. 56-58)
- ⑤ 発表について
- ・ 1学年では単元毎にクラスごとで発表した。
  - ・ 2学年ではクラスごとの発表に加え、令和2年12月17日に学校設定教科「あしがら」コース別発表会を実施した。(令和2年度研究開発実施報告書 p. 69-72)
  - ・ 学校全体としては事前に発表者の動画を録画し、オンラインで令和3年2月4日に発表会を行った。(令和2年度研究開発実施報告書 p73～)  
→ 発表機会が多く増えたので、発表の技術力も高まったように思う。
- ⑥ 山北町とのつながりについて
- ・ 広報山北や自治会の回覧板に情報発信をさせていただいている。  
(令和2年度研究開発実施報告書 pp. 98-102)
  - ・ 山北町教育委員会とNEXCO中日本のご協力により新東名の工事現場を見学することができた。
- b カリキュラム開発とその効果について 【小関総括教諭】
- ① 山北高校＝スポーツの山北というイメージがある中で、そのイメージを踏まえながら探究をどのようにできるのかが重要。
- ② 「未病」「地域防災」は昨年度から実施。
- ・ できることを模索してきた学校設定科目を設置するにあたって大幅にカリキュラムを変更した。
- ③ 1学年は「未来探究」2時間、2学年は「未来探究」1時間と学校設定教科2時間の計3時間
- ・ 1学年は「山北」「未病」「地域防災」を1ターン8時間でオムニバス形式で行った。
  - ・ 2学年の「未来探究」は昨年度の「山北」「未病」「地域防災」も絡めた形で実施した。
- ④ 令和元年度の教科等横断的な授業展開



- ・ 計画表をまとめることで視覚的に分かりやすくなった。（令和2年度研究開発実施報告書 p.83）

⑤ 令和2年度の教科等横断的な授業展開

- ・ 大正大学の浦崎教授のご講演を参考に、思考力育成のための「考えるための技法の活用について」①～⑦の中から各教科で活用できる思考力は何かをまとめた。
- ・ 思考力を高める授業を展開することで、生徒の中で様々な科目に渡ってネットワーク化され、課題解決したことが活用できる教科等横断的な取組に連結が期待できる。（令和2年度研究開発実施報告書 p. 84）

⑥ 組織について

- ・ 連携推進グループ、学習支援グループ、キャリア教育グループが主となり事業を実施し、最終年度としてキャリア教育グループは探究活動を生かした進路活動に連結した。

イ 令和3年度の研究開発実施計画について

a 未来探究等の予定について【沖津総括教諭】

① 4月以降の動きについて（1学年）

- ・ 1学年は山北町を知るところから始まった。年度当初には山北町散策を実施。
- ・ 6月11日には1学年教員4名が興味のあることを5分程度発表し、プレゼンテーションのコツや相手に伝わるための話し方を生徒に伝えた。
- ・ 夏休み以降は「山北」「未病」「防災」をオムニバス形式で学習し、地域の課題や知識を得ることを目標に、課題設定につなげる。

② 4月以降の動きについて（2学年）

- ・ 2学年は自分の興味のあることを掘り下げ、マイウィルリスト（興味のあること100）をポスターセッション形式で発表した。
- ・ それに際して事前に、教員4名がポスターセッション形式で発表をした。
- ・ 発表の課題としては、生徒が発表を見るポイントとして改善点も挙げられる力を養成したい。
- ・ 夏休み以降は「未病」と「地域防災」に分かれて実施。

③ 4月以降の動きについて（3学年）

- ・ 3学年はカタパルトの協力の下、2年間の活動をブラッシュアップしている。特に、毎回の活動では、発表活動の反省や活動を行っている。
- ・ 山北町教育委員会の協力の下、6月には山北町議会に対して2グループがプレゼンテーションを行った。
- ・ 9月には地域を良くするアイデアコンテスト「未病改善部門」「地域おこし部門」「防災まちづくり部門」に分かれて発表する。

b 令和3年度のカリキュラム開発と授業改善について【小関総括教諭】

- ・ 「未病」は共通科目の授業と連携し実施することはできないか模索しながら始まった。
- ・ 「地域防災」では、自然に恵まれている一方で、災害が発生しやすい山北町で高校生ができることは何かを探究している。昨日の伊豆山の土石流の災害を受けて、山北町にもし

「盛り土」があるなら、その場所を見つけ、「盛り土」がある理由やその危険性の有無などを探究活動に取り入れて行うことができないのかを検討したい。

- ・ 総合的な探究の時間の単位数の増加により、余裕をもった授業展開はできたが、課題として教員同士でフィードバックを行うなどの余裕もなくなってしまっている。
- ・ 来年度から新学習指導要領が始まり、観点別学習状況の評価が3観点となる。「あしがら」に関しては現段階では3段階評価で行っているのですが、来年度の他教科の評価に取り入れることはできないのか考えている。

#### C 12月の発表会 【沖津総括教諭】

- ・ 12月17日は山北高校で発表し、ポスターセッション形式での発表を検討中。全員が5分間で発表できるように検討中
- ・ 12月18日は松田町生涯学習センターで発表し、午前と午後に分けて行う。  
午前中は代表生徒6グループ【1学年1グループ、2学年2グループ、3学年3グループ】
- ・ 本番の発表では運営指導委員の先生方から講評をいただきたい。
- ・ 午後は他県などの外部の方を招き、生徒の発表、並びに職員による3年間の成果発表を行う。

#### (5) 指導・助言

##### 【小村委員】

- ・ 「未病」と「防災」をテーマにしたのは先見の明がある。未病や防災を深く生徒に感じてもらえればいい。そのためには、日々の授業やコミュニケーションの中で、コロナや災害のことを取り入れることが大事。
- ・ 生徒たちの進路面での意識の変化は何かあるのか。  
→ 2学年では神奈川衛生学園に先生による講演会があり、目を輝かせて講演を聞き、ツボを押し合っている姿が見られた。そのようなところにオープンキャンパスに行きたいという声があがっている。
- ・ 看護師を志望している生徒が少なからずいた。コロナ禍で自分と向き合う時間が増え、未病や地域防災の家庭での学習を通じた成果なのかもしれない。

##### 【石田委員】

- ・ 3年目となり、全学年が取り組む様になって組織について動きがよくなってきたと思うが、仕掛けや工夫はあったか。  
→ まず校内の分掌を少なくした。教員の意識として探究活動はやるものだと思ってやっている。
- ・ 一人ひとりの意識改革。探究に対する意識が一人ひとりに根付いてきているから、組織が構築されてきているのではないか。

##### 【羽入田委員】

- ・ 防災に関しては1学年だけでは「防災」、2学年では「地域防災」となっているが、未病の方も、学校設定科目で「未病と地域医療」などに見てみたらどうだろうか。名称が変わることによって、生徒にはどのような変容が見られるのだろうか。  
→ 地域に係る医療を未病にも取り入れることができればと思う。

## (6) 委員の皆様へ質問

Q この3年間の指定では町に提言することを大きな目標として活動してきたが、提言の仕方  
どのようにすれば良いのか？ (司会)

### 【小村委員】

- ・ まずは「議員レク」など活動している同世代がいることを伝える。
- ・ 発表会の場に地域の方、関連する企業の方に見ていただく。
- ・ 12月の発表では代表生徒を事前に生徒が選んで発表者を選出するが、発表者を選出する際に「何を目的に投票するか」を考えると良い。投票基準の一つとして、「実現したい未来が明確に描かれている」「実現の可能性が高い」「魅力的な企画である」などがあげられる。
- ・ 政策提言してアクションを起こすが、提案した後のその企画はどうするのか。後輩が先輩たちのものを引き継ぐ形で行うのか。3年生が行っている面白いことを学校広報に使って、来年度入学生に引き継いでもらう形もとれる。

### 【石田委員】

- ・ 発表＝提言と思わないが一方で、発表を提言とすることもできる。いずれにせよ、発表の形式による。
- ・ 発表の後、町やコンソーシアムに対して発表することも可能ではないか。
- ・ 6月に行われた「山北町青少年健全育成大会」において山北高校の生徒が山北町に対する思いの作文を披露した。

### 【羽入田委員】

- ・ 3年生は政策提言をすることは知っているのか？ → 知っている。

Q. この事業を今後どのように継続したら良いか。12月の発表会の実施要項は暫定的なものであり、今後変更もある。(岩本校長)

### 【小村委員】

- ・ 不安と恐怖を感じさせて勉強させるのではなく、生徒の中からわき起こるような学習への取り組みを支援する教育活動ができたのだと思う。
- ・ 活動そのものを継続するのではなく、エッセンスを残して行う。
- ・ 例えば「生徒の中からわき起こるものを継続するために」ということを今後も行っていくのであれば何を残すのかを考えて事業を継続させる方法もある。
- ・ 自分の学校だけで抱えるのではなく、他校と連携する方法もある。

### 【石田委員】

- ・ 神奈川県教育委員会と山北町で今後も協定を結んで進めていきたい。

## (7) 事務連絡

ア 神奈川県教育委員会高校企画室より

- ・ 令和2年度研究開発実施報告書は神奈川県のホームページにアップされ、その取組が紹介されている。

イ 岩本校長より

- ・ 昨年度はコロナ禍、今年度は異動が多数あり、4月、5月はなかなか本事業を前に進めることができなかったが、今は前に進みつつある。委員の先生方の言葉が励みになったので今後ともよろしく願いしたい。

## <令和3年度第2回運営指導委員会> (記録)

### (1) 日 時

令和4年2月3日(水) 15時00分～16時30分

### (2) 場所 山北高等学校 [オンライン開催]

### (3) 出席者

運営指導委員

石田浩二、羽入田眞一、小村俊平

山北高等学校

岩本明子、吉野雅史、内藤哲也、大川真弓、沖津雅俊、山内未来、志村美登里  
神奈川県教育委員会

川端麻穂 (司会)

### (4) 開会のあいさつ (山北高等学校 岩本明子校長)

### (5) 報告事項

#### ア 令和3年度完了報告書について

##### a 研究開発の実績について

- ・ 1学年 未病と防災に分けてグループ学習を実施し最終の週にクラス内で発表会を実施。
- ・ 2学年 マイプロジェクトを実施。
- ・ 3学年 6月に山北町議会に対して発表。12月の校内と松田町の発表会と1月の山北町で発表実施。
- ・ 研究成果発表会終了後、情報交換会で他県の方からの情報も得ることができた。
- ・ この活動を今後にも繋げていきたい。
- ・ 山北町への政策提言を受けてのアンケートでは、好意的な意見が多かった。
- ・ カリキュラム開発等専門家の後藤氏には年間を通じて探究の授業に関わっていただいたが、更に12月の発表会に助言を頂いた。
- ・ 地域協働学習実施支援員では、新たに3名を加え、講演会の講師であったり授業に関わっていただいたりなど幅広く活動を行うことができた。

##### b 目標の進捗状況、成果、評価について

- ・ 町の広報誌に活動内容を広報。
- ・ 山北町への関心が高まっている。山北町役場への希望者も生徒の中にいる。山北町の魅力をSNSで発信したいという生徒もいる。

##### c 次年度以降の課題及び改善点

卒業によって生徒の取組が終わってしまうので、学年を超えた縦のつながりをつくり、生徒の取組を続けていける仕組みづくりが必要。

#### ① 発表会の報告

12月の発表会では24名のコメンテーターからコメントをいただいた。

生徒だけでなく教員からも好評であった。現場の教員では思いつかない意見もいただけた。

1月の山北町の発表では、実際に今後行動に移して欲しいというご意見をいただいた。

#### ② 全国サミット

山北高校の発表に対し「行政のバックアップはあるのか？」という質問があった。

(6) 委員の先生方からのご意見・ご質問

【羽入田委員】

町の広報誌に掲載されたとあったが、タウンニュースはどうか。

→タウンニュースでの記事は掲載されていることは確認されていない

【小村委員】

発表会はとてもいい場であった。探究の発表会は全国で増えている。

いい発表会とイマイチの発表会の違いは何か。

イマイチの発表は発表がゴールになっている。

発表の後どうなったのかが大事である。

町が応援したりしてくれる今を見極める。

今後、生徒の中で活動がさらに展開していけるのが示せると良いのではないか。

【石田委員】

山北町・山北町教育委員会・山北高校の3者共催で発表会を実施。

105名に参加していただき、73名の方がアンケートに答えて頂いた。

肯定的な意見が97%。継続して欲しいという意見があった。

今回は3チームだけだったが、他のチームの発表も聞きたいという意見があった。

高校生らしい山北町への気づきがあった。

探究の時間の取組がよくわかった。

(7) 山北高校側から今後について

【岩本校長】

最終的に山北町への提言という取組は今後とも行っていきたい。

町・コンソーシアム・地域協働学習実施支援員との協働も引き続き実施していきたい。

【川端専門員】

全国サミットの後、何か反応は何かあるか。

→反応は特にはない。

【羽入田委員】

12月の発表の評判はどうか。

→昨今、探究的な活動が大学入試でも問われているが、そこに通用する発表が数多くあった。

(8) 令和4年度計画について

1 学年 探究とは何か。

山北町について知り、地域の方の助けを借りながら行動していく。

協働する力を育てる。

2 学年 1 学年のときに学んだ知識を使いながら、自分の思いを他者に伝えるプレゼンテーションスキルを向上させる。未病・地域防災の視点で山北町の課題解決。

伝わる力を育てる。

3 学年 これまでの学習をもう少しブラッシュアップさせ、山北町へ政策提言を行う。

未来を切り拓く力を身に付けさせる。

#### 【小村委員】

- ・ 先生方が今も困っていることは何か。学校外の組織からの支援はあるか。  
→ 3年間の事業をベースに考えていきたい。文部科学省の指定が外れるので、資金的な部分で困る可能性がある。校外では山北町から多大な協力を得ているので、それを活かしながら、地域協働学習実施支援員等を活用して行っていきたい。各学年中心になっている先生方が苦勞して探究活動に取り組んでいるが、教員間の温度差はある。全体でやっていく雰囲気を作りたい。

#### 【石田委員】

- ・ 探究を広げ、深めていく必要がある。そのためには人材的な支援が必要になる。
- ・ 山北町と県教育委員会で協定を結んでいるので、できる限り協力していきたい。
- ・ 提言から町への参画も視野に入れて考えていきたい。

#### 【羽入田委員】

- ・ 山北町との県教育委員会の協定について（指定終了後はどうなるか。）  
→ 山北町と県教育委員会、山北高校共に継続していきたいと考えている。

### (9) 指導・助言

#### 【羽入田委員】

- ・ 2学年から3つの系に分かれるのは山北高校の大きな特徴。
- ・ 今までは「スポーツの山北」であったが、これからは「探究の山北」と看板をあげてみてはどうか。さらに広報を充実。山北町が著作権等を持っている写真等を山北高校のホームページで使わせてもらってはどうか。ドローンを使って写真を撮り広報に使うのもよい。
- ・ 発表会にOB・OGを呼び、探究活動の際の苦勞話やどのようなことを学んだのかなどを後輩に伝える。
- ・ 生徒が取り組んだ内容を年度ごとに冊子化し、それを図書館に所蔵して生徒の目に触れさせる。事前学習に活用してもよい。

#### 【小村委員】

- ・ ホームページの活用も含めた地域への呼びかけを継続して行っていく。
- ・ 生徒を戦力として取りこむ。学びの受け手ではなく、学びの主体である。与えられた学びではなく、自分たちが当事者意識を持って取り組むことが大事。生徒が外に出ると、そのことによって生徒が刺激を受ける。生徒を信頼し、任せることが大切。
- ・ ICTをいかに活用するか。これにより、他校とも連携できるようになる。最初は調整のコストがかかるが、発表会の持ち回りや、オンラインで連携事業ができればよい。今まで作ってきた同じ指定を受けていた他県の高校とのつながりを継続・発展させるとよい。

#### 【石田委員】

- ・ 0歳から15歳までの一貫教育・保育を考えている。
- ・ 山北高校卒業までの連携を考えている。発表会に中学生が参加するというのも良いのではないかと。教員間の交流だけではなく、高校生と小学生及び中学生との交流をもっと行えたらと思っている。

**【岩本校長】**

- ・ スポーツと探究の二兎を追う山北へ。
- ・ 格安スマホを利用して写真や映像をホームページにもっと掲載できるように考えている。
- ・ 生徒が学びの主体であることは忘れてはならないと再認識した。
- ・ 自他を思いやる力、挑戦する力、協働する力、伝える力、未来を切り拓く力の5つの力を探究の核として身に付けさせていきたい。
- ・ 様々な報告書については、運営指導委員の先生方のご助言を踏まえて作り上げていく。

## 2 やまきた未来コンソーシアム

### (1) コンソーシアムを組織した経緯

平成 30 年 3 月告示高等学校学習指導要領前文に「社会に開かれた教育課程の実現」「家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくこと」が重要と記されている。

については、県教育委員会の「県立高校生学習活動コンソーシアム」に倣い、本校においても本校を支えてくれる諸団体とコンソーシアムを組織することとした。

本校コンソーシアム（やまきた未来コンソーシアム・YMC）においては、構成員各所からのご提案や本校からの協力依頼に基づき、教育活動への支援をいただくとともに、本校の未来を地域の未来と重ね合わせ、本校の指導改善につなげている。

なお、以下の表への記載は割愛したが、山北町は県教育委員会との協定に基づき、全面的に協力してくれている。学校運営協議会への職員派遣、町職員によるコーディネーターチームの編成、地域協働学習実施支援員の紹介と謝金分担、生涯学習センターの利用料減免、広報・自治会回覧等による地域住民への周知など様々な支援を受けている。

### (2) 令和元年度・令和2年度・令和3年度の実績等

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部 令和元年 12 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の生活状況や意欲についてのアンケートの作成・集計に協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の生活状況や意欲についてのアンケートの作成・集計に協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の生活状況や意欲についてのアンケートの作成・集計に協力</li> </ul>
有限会社小田原ドライビングスクール 令和元年 11 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域防災の取組み支援により、教員対象ドローン講習会を実施（令和元年 12 月職員対象）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向けドローン講座（実技&amp;座学）の準備（コロナのため実施できなかった）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向けドローン講座（実技&amp;座学）の準備（コロナのため実施できなかった）</li> </ul>
株式会社ベネッセコーポレーション 令和2年 1 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウドサービスを活用した学習指導についての助言・支援</li> <li>生徒対象講演や職員研修の講師紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウドサービスを活用した学習指導についての助言・支援</li> <li>オンライン会議実施にあたっての技術的支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウドサービスを活用した学習指導についての助言・支援</li> <li>オンライン会議実施にあたっての技術的支援</li> </ul>
かながわ西湘農業協同組合 令和2年 3 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>足柄茶ペットボトルの提供</li> </ul>		
山北町商工会 令和2年 8 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度の地域協働学習実施支援員の紹介</li> <li>本校の取組に関係のありそうな企業等を随時紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の取組に関係のありそうな企業等を随時紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の取組に関係のありそうな企業等を随時紹介</li> </ul>
相日防災株式会社 令和2年 8 月 17 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>起震車手配</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>起震車手配</li> <li>防災講演会開催</li> </ul>
ゆいスポーツクラブ 令和2年 10 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>未病の取組の支援、授業サポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未病の取組の支援、授業サポート</li> <li>生徒のプロジェクト実施支援（令和2年 12 月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未病の取組の支援、授業サポート</li> </ul>
山北町観光協会 令和3年 8 月 11 日		<ul style="list-style-type: none"> <li>フィールドワークでの、インタビュー対象団体の紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィールドワークでの、インタビュー対象団体の紹介</li> </ul>



南足柄みらい創りカレッジ	・ 学校運営協議会関連研修の SDGs カードゲーム運営支援		
山北町都市農村交流活性化推進協議会	1 学年フィールドワークのファシリテーター	1 学年フィールドワークのファシリテーター	1 学年フィールドワークのファシリテーター

(3) 令和3年度実績とこれからの目論見

- a 国立教育政策研究所教育政策・評価研究部
  - ・ 生徒アンケート作成と集計に協力及び評価への助言
- b 有限会社小田原ドライビングスクール
  - ・ 地域防災でのドローン講座協力
- c 株式会社ベネッセコーポレーション
  - ・ オンライン会議支援
  - ・ Classi と StudyProgram の活用支援
- d かながわ西湘農業協同組合
  - ・ 協働企画へのお誘い
- e 山北町商工会
  - ・ 本校の取組に関係のありそうな企業等を随時紹介
- f 相日防災株式会社
  - ・ 地域防災の授業へ講師派遣
- g ゆいスポーツクラブ
  - ・ 未病の取組の支援、授業サポート
- h 山北町観光協会
  - ・ フィールドワーク、インタビュー団体の紹介
- i 南足柄みらい創りカレッジ
  - ・ 協働企画へのお誘い
- j 山北町都市農村交流活性化推進協議会
  - ・ 1 学年フィールドワークのファシリテーター

(4) 今後（令和4年度以降）に向けて

- a 理念
  - ・ コンソーシアムを組織することにより、山北高等学校の未来を地域のステークホルダーと描き、社会に開かれた教育課程を実現していく。
  - ・ 学校と地域、企業が協働してどんな生徒を育てたいのか、その生徒たちとともにどんな地域の未来を作りたいか。地域のニーズに対応できるのか。ともに話し合うプロセスを作っていく。
  - ・ 多様な人々と協働しながら、答えのない課題に粘り強く向かっていく資質・能力を生徒だけでなく、教職員も伸ばしていく。
- b 事業
  - ・ 山北町フィールドワークの実施（町の産業体験、街歩き、史跡巡りなど）
  - ・ 山北町、地域防災、未病等に係る生徒対象講演の実施（まちづくりワークショップなど）
  - ・ 山北町、地域防災、未病等に係る教員対象研修の実施（チームビルディングなど）
  - ・ 外部団体による山北高校情報発信（Instagram、Twitter など）

(5) コンソーシアム事業取組に関するアンケート

地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係るアンケートを実施し、この取組みにご協力頂いている団体及び地域協働学習実施支援員の方から今後の活用に関してのご意見をいただきました。

令和3年度 3年生探究発表会 発表一覧 別紙1

講演番号	タイトル	発表者	カテゴリー
	山北町の発展	高橋画、室伏	山北
1	私たちは山北町の人口について疑問を持ちました。そこで、人口の増減は山北町の魅力と関連があると予想し、山北町について観光の視点から調べました。その結果、山北町の「魅力を伝えるためのツアー」をすればいいという結論に至りました。		
2	人口減少を防ぐためには	秋元、菊池、高橋画	山北
3	私たちは「山北町に人を呼び込むために」というテーマについて調べた結果、以下のことが分かりました。1つ目は自然が多いいそれを生かしたスポーツイベントなどがない。2つ目は、移動手段が少ないことが分かりました。山北町が不便という点に至りました。	高橋、小野、津藤、長嶋	山北
4	行ってみよう！生まれ変わった山北町へ	小川、佐藤、米山	山北
5	私たちは、山北町にはたくさん観光スポットやおいしい料理があるにも関わらず、他の市町村に比べると観光客が少ないかと思いました。そこで私たちはSNSを使って山北町の良いところを写真を使ってPRしようと思いました。その結果、ほぼフォロワーのInstagramアカウントでハッシュタグをつけて投稿したら約40人の方いいねを頂きました。	込山、藤原、高畑、佐久間	山北
6	私たちは、箱根町より山北町のほうが面積が多いのに、箱根町の方がキャンプ人口が多いことについて疑問を持ちました。そこで、どうすれば山北町のキャンプ人口が増えるかどうか、キャンプを楽しむ側の視点から調べました。その結果、キャンプツアーを計画するという結論に至りました。	清野、御堂、新井表	山北
7	私たちは、山北町の人口減少について疑問を持ちました。そこで、山北町は果物と関連があると予想し、果物について調べました。その結果、山北町の果物を使ったパフェをつくるという結論に至りました。	伊村、尾崎	山北
8	空き家バンク、ホテルの客を利用して、山北の人口を増やしている。また、そのような施設を利用してもらうための工夫を考えました。	木村、菅本、三富	山北
9	私たちは若者の健康状態について疑問を持ちました。そこで、若者の健康は運動と関連があると予想し、運動について「身近な新聞紙を使って健康になろう」と考え調べました。その結果、新聞紙を使い体を動かすことで未病改善につながり楽しく遊べると考えました。	日下部、坂本、堀川、小嶋、石田、藤川、鈴木	未病
10	私たちは今の少子高齢化について疑問を持ちました。そこで、短身ある山北町の高齢化比率、また現在進んでいるデジタル化にも目を向けてい解決策はないかと考え、課題は提案しました。	秋山、磯崎、秋山	未病

未病改善	秋野、本城	未病	
11	私たちは未病の改善方法について調べました。そこで、改善方法が食、運動、社会参加の3つの柱が大事ということに気づきました。その結果、「食」ではカロリーや塩分に気をつける。「運動」では、掃除の時に足を使うに真すずく上げる動作を入れ、足を運動をしたら趣味のスポーツをする。「社会参加」では、5つの場面を回遊するには未病で訪ねると結論に至りました。	久保寺、河野、高山、矢野	未病
12	私たちは、若者の健康状態について疑問を持ちました。そこで、若者の健康は運動と関連があると予想し、運動について身近な新聞紙を使って健康になろうと考え、調べました。その結果、新聞紙を使い、簡単に体を動かすことで未病改善につながり、楽しく遊べると考えました。	丸川、中村、村田、山本太	その他
13	私たちは、住みやすい町とは何なのかという疑問を持ちました。そこで、フィールドワークの結果などをと、地域の近代化と自然環境、人間の思想について調べ、それが社会に与える影響などについてまとめました。また、改善案などを考えて提案しました。	海本、塚宮、太田	その他
14	私たちは、イベントを開催している学校としない学校の違いについて疑問を持ちました。そこで、私たちはどのようなガイドラインを作成して、実施したのか調べました。そこから山北高校独自のガイドラインを作成しました。	加藤佳、後藤、大澤、大川	その他
15	私たちは豊野市の人口減少について疑問を持ちました。そこで、人口減少は子育て世代や関係人口と関連があると予想しました。その結果、SNSなどを通じて、豊野のよさを子育て世代に伝え、イベントなどを開き、豊野市を訪れるリーダーである関係人口を増やすという結論に至りました。	佐藤隆、高橋聖、杉崎	その他
16	私たちは南足柄市の特産品の知名度の低さに疑問を持ちました。そこで、特産品について南足柄市の長所、短所を調べ解決策を考えました。その結果、道の駅や金太郎まつりを利用し、知名度をあげ、人口減少を防止し、観光客が増えるという結論に至りました。	田中崇、天野	その他
17	私たちは、介護需要が増えていることについて疑問を持ちました。そこで、介護を必要としないくらい健康な人が増えれば介護需要は少なくなると予想し、健康でいられる生活習慣について調べました。	大須賀、小松	その他
18	私たちは、箱根のお土産と活性化させるには、どうすればいいかを考えました。また、どうすればお土産を買ってくれるかを考えました。	加藤剛、高坂、尾崎登	その他
19	私たちは瀬河原町と山北町について調べました。2つの町は自然の観光が豊富であるのに、観光客が減少しているということが分かりました。私たちは2つの町の観光マップを作り、観光客を増やすという結論に至りました。	芳野、船田彰、壺	その他
20	私たちは、箱根で起こる災害について疑問を持ちました。そこで、災害の改善と観光客の人数に関連があるのではないかと予想し、災害の改善をたくさん視点から調べました。		

別紙2

2年生 探究課題 抜粋	
21 未病改善(運動)	60 今後の未来、医療進歩を遅くさせない方法
22 コロナ収束を実現するには?	61 自信をもってポジティブに生きていくには?
23 公園などの野外に休める場所を増やす	62 きれいな山と海を保つためには?
24 自殺がなくなる社会を実現するには?	63 ゴミの分別が苦しまないようにするには?
25 コロナ禍でも安心して生きていける社会の実現	64 皆が元気に暮らせる社会を
26 高齢者の運動	65 ゲームが認められる社会
27 ポイ捨てをなくすには?	66 高齢者が元気に生かされる社会
28 障がい者の方便が住みやすくなる世界にするには?	67 小学生が普通にトイレができるには?
29 少子高齢化を防ぐには?	68 ゴミがゼロできる町
30 地球温暖化を遅らせるには?	69 海のごみがなくなるには?
31 高齢者でも元気に外に出られる社会	70 ニートが働ける社会を考える
32 50代になった時に後悔しないためには?	71 ペットの飼育放棄をなくすには?
33 コロナ禍でも楽しく生活するには?	72 地域交流を促進するには?
34 バリアフリーを増やす	73 国民が平等になるには?
35 町の人口減少を防ぐには?	74 みんなが笑っていられた世界をつくるためには?
36 交通事故がない社会	75 夏休みの宿題をなくすには?
37 登下校の際に利用する電車でストレスなく乗るには?	76 老人ホームや高齢者にやさしいバリアフリーを増やす
38 いじめがなくなるには?	77 御殿場線の本数を増やす
39 山北の歴史を使った町づくりするには?	78 医療進歩を遅くするためには?
40 千津島、班目地域の過疎化を防ぐには?	79 女性が育児と仕事を両立できるようにするには?
41 高齢者の健康で長生きできる社会	80 人種、男女差別のない社会を実現するには?
42 ゲームはスポーツであり、一種の Comedy であること	81 LGBTの人が隠さずに暮らす社会を実現するには?
43 社会人や学生が十分な睡眠をできる社会をつくるには?	82 子どもが公園で遊んでいない
44 山北町に観光客を増やすには?	83 高齢者が多くても介護する人が少ない社会
45 猫が殺処分されない社会を実現するには?	84 インターネットを上手に活用していく社会
46 小さい子どもが苦手な食品	85 誰もが「助かる」社会
47 全世代が元気に楽しく生きていける社会とは?	86 高齢者が家に運動できる機会をつくる
48 運動する人が減ってきている	87 高齢者が暮らしやすい社会にするには?
49 人種差別をなくすには?	88 食品ロスをなくすためには?
50 地球の環境を守る	89 瀬河原に人を呼び込む
51 高齢者用の物を作る	90 全ての国でごはんを平等に食べるには?
52 差別がない社会を実現するには?	
53 若者が強い	
54 科学進歩による未来 (A1)	
55 若者が積極的に政治参加する社会にするには?	
56 だれもが健康でいられる社会	
57 公共施設にバリアフリーを増やす	
58 食料などがムダにならない社会をつくるためには?	
59 若者の負担を減らし、支える側も支えられる側も安心して生活できる社会を実現するには?	

地域との協働による高等学校教育推進事業に係るアンケート

別紙1、2は本校生徒が取り組んでいる探究の研究テーマです。今後のコンソーシアム活用に向けて参考資料とさせていただきます。以下の質問にご回答いただきますよう、お願い申し上げます。なお、ご回答がすぐに具体的なご支援につながるものではないことを申し添えます。

質問1 別紙1 別紙2の中の課題から興味・関心をお寄せいただけるタイトルがありましたら番号でお答えください。  
【複数回答可】

質問2 質問1でお答えいただいたタイトルのうち、具体的に働きかけたいだけではないものについて、その方法等を簡単にお書きください。

質問3 その他、本校に対することに関してご意見、ご質問ございましたらご記入ください。

所属	
役職	
お名前	

提出期限を10月25日(月)とさせていただきます。同封いたしました返信用封筒に入れて10月25日までにご返送ください。

※電子メールアドレスをお知らせくださっている場合、ご案内は電子メールでもお届いたします。それに返信して下さっても結構です。

**1 別紙1 別紙2の中から課題から興味・関心をお寄せいただけるタイトルがありましたら番号でお答えください。**

- |                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 1 山北町の発展                        | 43 社会人や学生が十分な睡眠をできる社会をつくるには                 |
| 2 人口減少を防ぐためには                   | 44 山北町に観光客をふやすには                            |
| 3 山北町に人を呼び込むために                 | 47 全世代が元気に楽しく生きていける社会とは                     |
| 4 行ってみよう！生まれ変わった山北町へ            | 48 運動する人が減ってきている                            |
| 5 キャンプ人口増殖計画                    | 50 地球の環境を守る                                 |
| 6 山北絶品極上パフェ                     | 55 若者が積極的に政治参加する社会にするためには                   |
| 7 健康から始まるコミュニケーションって？           | 56 誰もが健康でいられる社会                             |
| 8 山北町の人口を増やすための計画               | 58 食材などが無駄にならない社会を作るためには？                   |
| 9 Walk instead!!                | 59 若者の負担を減らし、支える側も支えられる側も安心して生活できる社会を実現するには |
| 10 機会と高齢者の暮らし                   | 61 自身をもってポジティブに生きていくには？                     |
| 11 未病改善                         | 62 きれいな山と海を保つためには？                          |
| 12 新聞紙を使った運動                    | 63 ゴミのせいで動物が苦しまないようにするためには                  |
| 13 近代と自然の融合                     | 66 高齢者が元気に生きられる社会                           |
| 14 学校でイベントを開催したい                | 68 ゴミが0できれいな町                               |
| 17 介護需要を少なくするには                 | 69 海のゴミがなくなるには                              |
| 19 2つの町の魅力とは                    | 72 交流を活発にするには                               |
| 20 渋滞                           | 77 御殿場線の本数を増やす                              |
| 21 未病改善（運動で）                    | 82 子供が公園で遊んでいない                             |
| 22 コロナ収束を実現するには？                | 83 高齢者が多くても介護する人が少ない社会                      |
| 23 公園などの静かに休める場所を増やす            | 85 誰もが「助かる」社会                               |
| 24 自殺がなくなる社会を実現するには             | 86 高齢者が楽に運動できる機会をつくる                        |
| 26 高齢者の運転                       |   |
| 29 少子高齢化を防ぐには                   |   |
| 31 高齢者でも元気に暮らせる社会               |   |
| 32 50代になった時に公開しないためには           |   |
| 35 町の人口減少を防ぐには                  |   |
| 36 交通事故の無い世界                    |   |
| 39 山北の歴史を使った町作りをするには            |   |
| 41 高齢者が健康で長生きできる社会              |   |
| 42 ゲームはEスポーツであり、一種のコメディであるということ |   |

2 1でお答えいただいたタイトルのうち、具体的に働きかけしていただけたものについて、その方法等を簡単にお書きください。

① 3.4.6.11.13.39.44.55

(山北町観光協会：佐藤精一郎様)

行政や各団体等と連携することにより、課題を掘り下げて短期・長期に分けて具体案を作る事が可能ではないか。

② 6.7.9.12.17.56.77

(山北町保険健康化 主任主事：草間恵美様)

関連する団体さんや役場の関係各課へ話をつなぐ。

③ 7.11.17.31.41.66.83.22.25.60.78

(足柄上地区在宅医療介護支援センター：堀田住子様)

授業やグループワークに参加してアドバイスをす

る。地域の活動と見学に同行する。現場の生の声を聞く。

食育、健康推進、福祉、介護事業の各種計画を読み解く。

県立足柄上病院には災害時に出向く DMAT(災害派遣医療チーム)がある。DMAT のための救急車も持っている。また、新型コロナウイルス感染症の際も横浜港のダイヤモンドプリンセス号の患者を搬送し、治療にあたり、岩淵医師が有名になった。今もコロナ患者を収容する病院である。医師の講義や救急車の見学などできるかもしれない。

④ 72

(地域協働学習実施支援員 農業委員：高杉光男様)

町社協及び近隣自治会と連携をとり対象者を絞り月1回程度生徒が主体となり地域住民と一緒にラジオ体操を実施する。終了後は困っている事等の声を聴き地域の課題を掘り起こし共有していく。

⑤ 5.42.44 (山北町商工会：和田道徳様)

町の人口増は大切なテーマである。それと同様に関係人口増も大事だと考える。上記のタイトルをヒントに関係する事業者等と話ができればと考える。

⑥ 13.62.63 (向原連合自治会会長：瀬戸雅弘様)

長年登山を続けてきているので山(大きくは自然)とゴミ、山のトイレ問題、山と動物などについて興味がある。どのように具体的に働きかけできるか分からないが、声をかけていただければお手伝いできることはしたいと考えている。

⑦ 26.36.69 (小田原ドライビングスクール：沼倉聡様)

26.36 に関しては交通安全教育・講演等、69 に関しては水中ドローンを活用しての現状の調査等を行うことが可能である。

⑧ 1 (加藤陽一郎様)

山北町では「森林セラピー」や河村氏の「金箔押鳥帽子形兜」、民族文化財国指定「お峯入り」県指定「百万遍念仏」、国指定の箒杉、D52 などたくさんの「魅力あるもの」がある。森林セラピーなどは具体的に定期的に活動している。「ツアー」をすればよいとあるが、それらを紹介するためにどのような方法でツアーをすればよいのかを高校生に考えてほしい。私としては兜や踏谷虹児の絵などをラシャ紙大にした資料を川村小(旧)が閉校する時に作成したので提供できる。

⑨ 4.64 (JA 神奈川西湘山北支店 支店長 佐藤克徳様)

やまきたブランド(農産物等)認定されている作物のPRや研究が可能である。

⑩ 1.8

(一般社団法人かながわ地区振興会 理事長:瀬戸恒彦様)

高校生が考える山北町の魅力を伝えるツアーに関心があります。山北町の発展のためには魅力あふれる体験プログラムを企画・実施し交流人口を増やす施策とともに地場産業の振興が必要である。現在、個別に実施している施策をつなげ統合化することが求められている。山北駅周辺の魅力を高めるためのワークショップを開催し、地域活性化に向けた政策を学ぶ機会を提供することができる高校生が考える空き家バンクの活性化及びホテルの家の活用方策に関心がある。山北町定住対策課所管の事業ですので高校生が考える施策について実現可能性を含め町の職員と意見交換する場を提供することが可能である。なお、商店街の空き店舗の活用についても町の人口を増やすための施策として重要ですので併せて検討することも有意義ではないかと思う。

⑪ 21

(Forest Edge 代表, フリーランス看護師, 神奈川県立西丹沢ビジネスセンター パート職員:東海林 真純様)

看護師: 看護師として未病についてディスカッション

22 (同上)

災害支援看護師: これまでの COVID-19 への取り組みへの振り返り

23 (同上)

森林セラピーガイド: 自然と心の健康についてのレクチャー

24 (同上)

精神科看護経験: 自殺予防についてのディスカッション

25 (同上)

災害支援看護師: これまでの COVID-19 への取り組みへの振り返り

43 (同上)

精神科看護経験・森林セラピーガイド: 睡眠と健康について学ぶ

47 (同上)

看護師・森林セラピーガイド: ストレスってなんだろう? ディスカッション

48 (同上)

看護師・森林セラピーガイド: 適度な運動が身体と心に及ぼす影響を学習

56 (同上)

看護師: 健康ってなんだろう? ディスカッション

61 (同上)

精神科看護経験・森林セラピーガイド: メンタルヘルスケアにおける心のメンテナンス

74

精神科看護経験・森林セラピーガイド: メンタルヘルスケアにおける心のメンテナンス

26 (同上)

看護師: 認知機能について学ぶ

29 (同上)

看護師: 少子高齢化とは?

31 (同上)

看護師: 高齢者との対話の機会の創生

41 (同上)

看護師: 高齢者との対話の機会の創生

51（同上）  
看護師：高齢者からのヒアリング、実践計画へのアドバイス

66（同上）  
看護師：高齢者との対話の機会の創生

76（同上）  
高齢者からのヒアリング、実践計画へのアドバイス

83（同上）  
訪問看護師としての経験：高齢者の介護って？自分の介護経験も踏まえて

86（同上）  
訪問看護師としての経験：高齢者のリハビリテーションを学ぶ

87（同上）  
訪問看護師としての経験：高齢者との対話の機会の創生

60（同上）  
看護師：医療システムについて学ぶ

78（同上）  
看護師：医療システムについて学ぶ

27（同上）  
西丹沢ビジターセンタースタッフ：環境保護の観点から実践計画へ

30（同上）  
森林セラピーガイド・西丹沢ビジターセンタースタッフ：環境変化と人類との歴史を学習

50（同上）  
西丹沢ビジターセンタースタッフ・森林セラピー

ガイド：まず、身近な環境について学んでみよう、フィールドワーク

62（同上）  
森林セラピーガイド・西丹沢ビジターセンタースタッフ：環境保護の観点から実践計画へ、フィールドワーク

63（同上）  
西丹沢ビジターセンタースタッフ：事例を探す

68（同上）  
森林セラピーガイド・西丹沢ビジターセンタースタッフ：環境保護の観点から実践計画へ、フィールドワーク

69（同上）  
森林セラピーガイド・西丹沢ビジターセンタースタッフ：実際活動しているグループを紹介（ICT、IOT）

84（同上）  
個人的得意分野として：何かひとつ社会に役立つ使い方を実践できるようアドバイス

### 3 その他、本校に関することに関して、ご意見、ご質問ございましたら簡単にお書きください。

①（山北町観光協会：佐藤精一郎様）

山北町の課題を抽出していただき、山北町を住民より深く考えている事に感謝いたします。また、行ってみたい、住みたいをコンセプトに高校生の感性で提案していただけるとありがたいと思います。

②（足柄上地区在宅医療介護支援センター：堀田 往子）

コロナ禍ではありますが、フェイスシールドや手袋等持参して高校生と触れ合いたいです。

③（地域協働学習実施支援員 農業委員：高杉光男様）

“米”作る人いなくなったら・・・作物が全て輸入になったら・・・土地はどう変化していこう、考えると農業の魅力を若い時に感ずること必要。関心ある生徒にその環境づくりをお願いしたい。

④（向原連合自治会会長：瀬戸雅弘様）

お送りいただいた資料をひと通り拝見しました。授業の一環とはいえ生徒の皆さんが山北の諸問題につき興味を持ち解決策を考えてくれていることはうれしく思いました。それらのいくつかでも実行に結び付けばと思います。

⑤（小田原ドライビングスクール：沼倉聡様）

その他ドローンを活用しての災害対応等も可能です

⑥（加藤陽一郎様）

提供できるもの

1 兜、落谷虹児の絵（別添の2枚は、写真に撮ってA4版にしました。）

2 わたしたちの山北「歴史・文化から学ぶ」

### 3 足柄及文化 発表に必要なページ

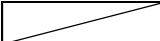
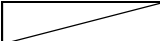
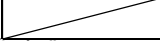
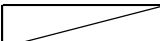

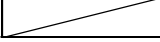
⑦（向原連合自治会会長：瀬戸雅弘様）

山北高校は1942年（昭和17年）に山北町立山北実科高等女学校として開校し、80年の歴史を刻む伝統校ですので、卒業生も大勢いらっしゃいます。こうした卒業生の力を結集して、山北町の未来を拓くためのエネルギーに変えられないかと考えます。山北町の活性化に向けて、一緒に未来を創る施策の企画立案、並びに実践をしていただける在校生及び卒業生のネットワークを構築したいと考えています。先日、ご提案した「SDGsまちづくりクラブ」の設置については時期尚早かもしれませんが今後のリーダー育成の観点からすれば、こうしたクラブ活動を通じて地域の課題を発見し、自ら実践していくことが自己の成長につながると思います。今後は有名大学に入るための偏差値教育よりも社会の役に立つ人間となるための人間力を磨く教育のほうが重要になると考えます。先日、見せていただいた山北高校のランドデザインがすべてです。こうした教育の実践がリーダーの養成につながり将来の企業経営者につながっていくことを期待します。

⑧（Forest Edge 代表、フリーランス看護師、神奈川県立西丹沢ビジネスセンター パート職員：東海林 真純様）

フィールドワークや地域との密接な関係を築く上でもこのような取り組みをまずは「山北町」にて実施していただければと思います。また、地域住民としても山北町の魅力をお伝えし興味を持っていただけるようお手伝いできればと思います。

3 目標設定シート

【別紙様式7】					添付資料		
ふりがな		かながわけんりつやまきたこうとうがっこう			指定期間	2019～ 2021	
学校名		神奈川県立山北高等学校					
<b>地域との協働による高等学校教育改革推進事業 目標設定シート</b>							
<b>1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）</b>							
		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)							
<b>問題発見・解決能力</b>							単位:パーセント
*指定校にて実施するアンケートにおいて、「身の回りにある課題を発見し、その解決に向け、取り組むことができますか」という項目に「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合							
a	本事業対象生徒:			4月:43.5→2月:69.2	2月:64.9	2月:75.2	80.0
	本事業対象生徒以外:		60.1	2月:62.7	-	-	
目標設定の考え方:「総合的な探究の時間」や学校設定科目等における地域課題の解決等の探究的な学びを通じて、課題を発見し、解決する力を習得させる。							
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)							
<b>身近な人や地域の取組に関わり、協力することができる能力(社会性)</b>							単位:パーセント
*指定校にて実施するアンケートにおいて、この項目について「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合							
a	本事業対象生徒:			4月:50.8→80.8	2月:79.4	2月:82.0	80.0
	本事業対象生徒以外:		64.3	2月:68.2	-	-	
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、地元にいる身近な人々や地域の取組に関わり、積極的に協力することができる能力を習得させる。							
(卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)							
<b>幅広い年齢の人々と関わり、多様な考えを尊重し、思いやることができる能力(他者性)</b>							単位:パーセント
*指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「積極的にできる」「できる」と回答した生徒の割合							
a	本事業対象生徒:			4月:25.1→88.4	2月:82.4	2月:86.1	90.0
	本事業対象生徒以外:		77.1	2月:75.1	-	-	
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、地元にいる幅広い年齢や様々な立場の人々に関わり、自分以外の多様な考えを尊重し、他者を思いやることができる能力を習得させる。							
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)							
<b>山北町での生活を希望する生徒の割合</b>							単位:パーセント
*指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合							
b	本事業対象生徒:			4月:14.1→2月:20.8	2月:21.1	2月:19.4	20.0
	本事業対象生徒以外:		6.0	2月:9.7	-	-	
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、山北町への愛着を深め、山北町での生活を希望する生徒の割合を増加させる。							
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)							
<b>山北町に関係する就職を希望する生徒の割合</b>							単位:パーセント
*指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合							
b	本事業対象生徒:			4月:6.8→2月:18.5	2月:20.1	2月:18.6	20.0
	本事業対象生徒以外:		5.0	2月:10.6	-	-	
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、山北町の諸産業に対する関心を高め、山北町に関係する仕事や職業に就くことを希望する生徒の割合を増加させる。							
(高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標)							
<b>山北町に貢献することを希望する生徒の割合</b>							単位:パーセント
*指定校にて実施したアンケートにおいて、この項目について「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合							
b	本事業対象生徒:			4月:49.7→2月:64.7	2月:56.8	2月:54.7	50.0
	本事業対象生徒以外:		34.4	2月:62.7	-	-	
目標設定の考え方:本事業における取組を通じて、山北町への貢献意識を持つ生徒の割合を増加させる。							
(その他本構想における取組の達成目標)							単位:パーセント
c	本事業対象生徒:						
	本事業対象生徒以外:						
目標設定の考え方:							



2. 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
a	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) プロジェクト推進会議(カリキュラム開発等専門家と各教科の教科主任等で構成する会議)の開催					単位:回数
		0	5	5	12	12
目標設定の考え方:カリキュラム・マネジメントを推進し、本プロジェクト全体の進捗状況を管理する会議として、月に1度開催する。						
a	(地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 研究授業の実施					単位:回数
		0	4	0	4	4
目標設定の考え方:学校一斉の研究授業を年4回実施する。このうち2回を公開する。						
b	(普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 成果発表会の開催					単位:回数
		0	5	1	4	3
目標設定の考え方:毎年度末、各学年ごとに生徒が実施した探究活動の発表会を開催する。						
c	(その他本構想における取組の具体的指標) 管理機関が設定している指標に関するアンケート調査の実施					単位:回数
		1	2	1	2	2
目標設定の考え方:年度当初及び年度末にアンケート調査を行い、指標の達成状況を確認するとともに、次年度の改善に生かす。						

3. 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(年度)
a	(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) 地域の外部人材の参画によるフィールドワークの実施状況					単位:回数×人数
		0	35	35	35	5×10
目標設定の考え方:年間5回程度実施予定の生徒の探究活動に係るフィールドワーク(10分野程度を想定)において、地域の外部人材の支援を受ける。						
a	(地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標) コンソーシアム連絡会議の開催回数					単位:
		0	0	1	2	2
目標設定の考え方:コンソーシアム参加機関の担当者が出席する連絡会議を年度当初及び年度末に開催する。						
d	(その他本構想における取組の具体的指標)					単位:
目標設定の考え方:						

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数(人)	590	630	628	628	565
本事業対象生徒数			199	393	565
本事業対象外生徒数			429	235	0

#### 4 広報「やまきた」(地域に向けての取組紹介)

・令和3年5月号掲載

## 神奈川県立山北高等学校



### ★ 文部科学省と神奈川県から指定を受け、地域を教材とした課題解決型学習を行っています ★

- 1年生「知る」⇨ 山北町を知って課題の発見
- 2年生「探る」⇨ 実現可能な地域おこしプロジェクトの提案  
解決策の提案
- 3年生「実践する」⇨ 改善策の検討・政策提言

#### ※ 探究活動の取り組み

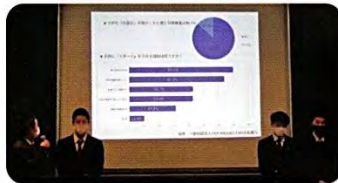
「すべての人に健康と福祉を」を軸に〈未病〉「住み続けられるまちづくりを」を軸に〈地域防災〉

☆文部科学省指定  
地域との協働による高等学校教育  
改革推進事業「地域魅力化型」

☆神奈川県教育委員会指定  
「総合的な探究の時間」に係る研究  
SDGsテーマとした展開に係る研究

### 探究活動発表会

令和3年2月4日(木)に探究活動の成果発表会をオンラインで行いました。新型コロナウイルスの影響で思うように活動できない中、生徒一人ひとりが探究活動を真剣に取り組み、町内を始めとして探究活動の成果を内外に発信しました。今後も活動は続きますので、温かいご支援・ご協力をお願いいたします。



### 山北町を知る

令和3年3月15日(月)、16日(火)、18日(木)、22日(月)の4回に分けて、「山北町を知る」「山北を探る」の探究活動の一環で、新東名の工事現場「山北PR館」を見学しました。



※詳しい活動内容は、神奈川県立山北高校HPをご覧ください。

【問合せ】神奈川県立山北高等学校 (電話) 75-0828 (代表番号)



# 神奈川県立山北高等学校



## ★ 文部科学省と神奈川県から指定を受け、 地域を教材とした課題解決型学習を行っています ★

- 1年生「知る」⇨ 山北町を知って課題の発見
- 2年生「探る」⇨ 実現可能な地域おこしプロジェクトの提案  
解決策の提案
- 3年生「実践する」⇨ 改善策の検討・政策提言

### ※ 探究活動の取り組み

「すべての人に健康と福祉を」を軸に〈未病〉「住み続けられるまちづくりを」を軸に〈地域防災〉

#### ☆ 文部科学省指定

地域との協働による高等学校教育  
改革推進事業「地域魅力化型」

#### ☆ 神奈川県教育委員会指定

「総合的な探究の時間」に係る研究  
SDGsテーマとした展開に係る研究

## 山北町を知る

4月15日、1年生が新入生オリエンテーションで山北町のハイキングコース「水緑まんぶくコース」を歩きました。河村城址歴史公園や洒水の滝を見学し、山北町の歴史や自然について知る機会となりました。



## 探究活動発表会

6月24日、3年生の代表2グループ8名が山北町立生涯学習センターにて探究活動の成果を発表しました。ご出席していただいた方からは発表の仕方や内容について様々なご意見をいただきました。なお、1、2年生も探究活動の成果を12月に発表する予定です。



### 研究成果発表会

～次の日程で予定しています～

令和3年12月17日(金)

12月18日(土)

研究成果をご覧ください!

詳しくは今後ご案内します。

## 祝 関東大会出場

新型コロナウイルスの影響でなかなか思うように活動ができない中でしたが、感染対策に注意しながら生徒は日々練習に励んでいます。その結果、次の4つの部活動が関東大会出場を決めることができました。今後も温かいご支援とご協力をお願いします。



男子バレーボール部(ベスト16)



カヌー部



男子ソフトボール部(第5位)



弓道部

※詳しい活動内容は、神奈川県立山北高校ホームページをご覧ください。

【問合せ】神奈川県立山北高等学校 (電話) 75-0828 (代表番号)



# 神奈川県立山北高等学校



## ★ 文部科学省と神奈川県から指定を受け、地域を教材とした課題解決型学習を行っています ★

- 1年生「知る」⇨ 山北町を知って課題の発見
- 2年生「探る」⇨ 実現可能な地域おこしプロジェクトの提案 解決策の提案
- 3年生「実践する」⇨ 改善策の検討・政策提言

### ※ 探究活動の取り組み

「すべての人に健康と福祉を」を軸に〈未病〉「住み続けられるまちづくりを」を軸に〈地域防災〉

### ☆ 文科省指定（第3年度目）

地域との協働による高等学校教育改革推進事業「地域魅力化型」

### ☆ 神奈川県教育委員会指定

「総合的な探究の時間」に係る研究  
SDGsテーマとした展開に係る研究

## 探究成果発表会

令和3年12月18日（土）、松田町生涯学習センターにて、山北町長、副町長、教育長にご臨席いただき、1年生から3年生までの代表6グループがそれぞれの探究活動の成果を発表しました。多くの方々にご出席していただき、ありがとうございました。



### 研究発表タイトル

- ・心の病気とは何だろう？
- ・犯罪被害減少を目指して
- ・山北町の少子高齢化問題について
- ・コロナウイルスによって破壊された自然とは
- ・保護動物カフェを廃校に作る
- ・未病予防の食生活プログラム



## 山北町を知る

令和3年12月22日（水）、1年生が県立西丹沢ビジターセンターを訪れ、山北町の自然とふれあいました。ガイドの方から森林や自然災害についての話を聞き、環境問題についての知識を深めることができました。



※詳しい活動内容は、神奈川県立山北高校ホームページをご覧ください。

【問合せ】神奈川県立山北高等学校（電話）75-0828（代表番号）



# 教育委員会だより

第77号 令和4年3月16日  
 編集発行 山北町教育委員会学校教育課  
 〒258-0195 山北町山北 1301-4  
 TEL 0465-75-3648

## 第1回県立山北高等学校「地域との協働による報告会」



1月14日、100名を超える参加者を得て「伝えよう山北町に。私たちの気づきと思い」をテーマに、山北町をフィールドにして3年間取り組んできた山北高校の地域魅力化型探究学習の成果報告会を開催しました。その様子をお伝えします。

第1部では、はじめに、高校生（3グループ）から、町活性化のための提言が発表されました。制約の多いコロナ禍の中でもしっかりと学びを深め、素敵なアイデアを考えてくれた高校生に会場から大きな拍手が送られました。

次に、山北高校の先生から「やまきた未来コンソーシアム」（高校と地域協働する関係機関で構成された共同体）の協力を得た授業の様子や、研究成果と今後の課題について報告をいただきました。

第2部では、浦崎太郎教授（大正大学）から「高校生の学びの成果を地域に生かす意味」をテーマにご講演いただきました。地域をフィールドに高校生が「探究」として、「自分が世の中で活躍できている状態」、それは「自分と世の中が相思相愛の状態」。「自分らしく生きる」とは「恋していること」。探究＝デートです。地域の応援を受けて挑戦・成長した高校生は、伸びて高い実力を身に付ける。地域から受けた恩がわかり、絶対に忘れない。学校・地域協働で「山高生の恋愛成就を応援しよう」と、力強いエールをいただきました。

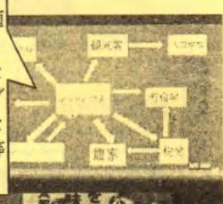
山北町の少子高齢化について気になり、探究を進めていくうちに、年々人口が減少し、少子高齢化も進む危機的状況にある中、町も様々な取り組みをしていることがわかりました。そこで、自分たちが取り組める現代の強い共有手段であるSNSを活用し、自分が見つけた山北町の魅力を積極的に発信しよう。



山北町役場などへのインタビューから、山北町に来た人たちが捨てたBBQのごみや増えた路上駐車などが自然破壊につながっていることがわかりました。そこで、BBQ場利用時に「基本料金（弁当・ごみ袋のデポジット料金含む）」＋「GoTo山北券」を支払ってもらい、ごみを残さずきれいに片づけた人にデポジット料金を返金し、山北町で使える商品券を配付する「Let's Go! to 山北」を提案します。



山北町には山林が多く、ツリーハウスに適した木があります。そこで、何も持たずにリゾート感覚で宿泊できるグランピング施設としてツリーハウスをクラウドファンディングで実現したら、山北町に新たな産業の創出と地域活性化、観光客の増加、また人口増加等が期待できるのではないかと考えます。



大正大学 浦崎太郎教授の講演



客席からの質問に答える高校生



高校からの報告



高校生からの提言

### 参加された方々からいただいた主なご意見・ご感想 (アンケートからの抜粋)

- 堂々と発表されている高校生の姿がとてもたくましく思えました。高校生が地域について考えるだけでもすごいことと思います。それだけでなく行動し発表に至るまでの時間に感銘を受けました。
- 山北高校のことを知らなかったのですが、研究の内容もそうですが、授業の様子も知ることができました。町外から来ている生徒さんも山北を知り、考えてくれている思いがとてもよく伝わってきました。今後の山北町・高校生を大切にしたいと思えます。これからの成長も期待しています。
- 高校生の視点で感じたことアイデアが盛りだくさんでした。何よりプレゼン力、素晴らしかったです。山北町で近い将来力を発揮していただきたいと心から思いました。
- “当たり前”を見直すきっかけやいろいろな友達の意見にふれることでの発見など、高校生だからこそできる経験につながると感じました。自分の子どもの高校でもこんな取り組みがあったらいいなと思いました。
- 山北町の魅力を感じての提案、ありがたかったです。住民もポジティブに魅力を受け入れて、よい町にしていこうと思われました。山北町が、人のための町であってほしいと強く思いました。
- 浦崎先生の講演、素晴らしかったです。大変参考になりました。
- 第2回、第3回とぜひ続けてください。他のチームの発表も機会を見つけて聞いてみたいです。フィールドワークなど、地域住民の積極的な参加も必要であると感じました。応援しています！がんばってください。

6 山北高校未来探究展示パネル（研究成果発表会にて展示、カタパルト作製）

# 山高の探究は すごいらしい。

他の学校とはちょっと違う。  
生徒が輝き、生きる力が強くなる  
山北高校の探究。

神奈川県立山北高等学校

## 山高の探究の基本フレーム

inquiry ?

## 山高の生徒が3年間の探究で学ぶこと

- 1 年生**
  - 情報の知識の収集 (2025, 4次元, 宇宙, 地球環境)
  - フィールド・ワーク (歴史地区の民家の調査, 企業, 地域調査)
  - 課題発見 (課題発見を促す, 調査, 社会, 発表)
- 2 年生**
  - 課題発見 (地理, 生物, 歴史の専門授業の活用)
  - 課題解決の仮設設定 (独自性の高いアイデア, 既習得の高い解決方法)
  - フィールド・ワーク (仮説検証のための調査)
  - プレゼンテーション (分かりやすくまとめる, 発表する)
- 3 年生**
  - 修正・改善 (2年次の課題解決方法の修正と具現化)
  - 最終発表 (さらに改善した解決方法を発表)
  - 実行 (課題解決方法で実行可能なものは実行していく)

3年間で15の生きるチカラが身につきます。 inquiry ?

## 探究の学習により3年間で 15の生きるチカラが身につきます。

GET 15 POWERS!

山高の探究で身につくチカラ

inquiry ?

## 2019 躍動

- 知識の習得
- フィールド・ワーク (山北散策)
- 企業とのコラボレーション探究

**成果**  
講演会やフィールドワークを通して、SDGsの基本知識や山北町の現状・課題について学びました。さらに、企業とのコラボレーションを通して、絵本作成などユニークな探究活動に取り組むことができました。

www.tokai-nishi.ac.jp/inquiry-class/ Yamakita High School Inquiry class Yamakita High School

## 2019年

フィールドワークの調査コースでは、周辺を食へ歩きながら、観察を続けました。鳥の観察員さんで観察もいただきました。

フィールドワークの林探検コースでは、山北町の学芸員の方から竹の活用について、竹を駆使して様々な物を作りました。

フィールドワークの歴史・文化遺産コースでは、資料館見学を通して、竹を駆使して、大工職人から学びました。

フィールドワークの自然観察コースでは、山北町の自然観察員の方から、山北町の人の生き生きとした姿を知りました。

フィールドワークの歴史・文化遺産コースでは、山北町の歴史・文化遺産について学びました。

inquiry class Yamakita High School

## 2020 成長

- 未病・地域防災の知識を深める
- フィールドワークでの調査
- マイプロジェクトの設定

**成果**  
未病と地域防災から生徒自身が興味のある分野を選択し、探究活動を行いました。さらに、それまでに習得した知識をもとに、地域の現状・課題についてフィールドワーク(実地調査)を実施しました。

Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School

## 2020年

2年次からはMy Projectを設定し、自主課題に意欲的に取り組む生徒も増加しました。3月にはフィールドワーク調査にも参加しました。

学校設定科目「地域探究・未病」に力がかかり、1年間以上の知識を習得しました。3月5日5コースに分かれ、発表を行いました。

探究授業コースの1つのグループは、まだその調査結果に自信が、課題を克服した発表を行いました。

初年度の中いスポーツクラブ人と連携し、地域の子ども達を助けて、実際に活動しました。子ども達の笑顔が印象に残っています。

地域探究の探究コースでは、準備を完了して山北町観光協会のガイドツアーを行いました。

2年次の探究として、2月に発表会を行いました。発表スライドから発表し、相手に探究した内容を伝えられるようになっていました。

inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School

## 2020年 (現2年生の1年次)

国史科、生物、地理科の3つの分野について基本的な知識を身に付けるとともに、それぞれの単元について学習しました。

学年を越えたり2年次会期のオンライン授業準備を行いました。発表発表では、問題解決に導く授業も始まりました。

山北町のフィールドワーク。山北町生涯学習センターでササユース作りを体験し、実際に作ったジュースを飲みました。

山北町フィールドワーク。山北町の歴史や自然を学び、山北町の魅力を伝えるためのプレゼンテーションを行いました。

山北町フィールドワーク。山北町の歴史や自然を学び、山北町の魅力を伝えるためのプレゼンテーションを行いました。

山北町フィールドワーク。山北町の歴史や自然を学び、山北町の魅力を伝えるためのプレゼンテーションを行いました。

Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School

# 2021 結実

- 1 少人数クラスでのゼミ活動
- 2 プレゼン能力の向上
- 3 地域への提言

**成果**

少人数のゼミ活動によって教員と生徒が密にコミュニケーションを図ることで、生徒一人一人の肉体的な成長もみられました。さらに、授業の集大成として学年の全員が発表を行いました。

Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School

## 2021年 (3年生)

10月22日授業小規模化も授業改善の目処とし、4月から前半を調整し、後半を準備する体制が実現しました。

年次単位ごとの学習内容を振り返り、各単元には生徒、教員を含めて50名程度の発表を行いました。

これまで授業も準備期間も行ってきただけあり、どのグループも素晴らしいプレゼンを行うことができました。

各会場から代表グループとして3グループ程度を生徒による発表委員と教員による指導員によって選出し、学年での発表を行いました。

生徒は自分たち以外のグループの発表に対して、質問による対話と発表の質向上のためのフィードバックをワーキングシートに記入しました。

各会場から選出された代表の10グループは、年次単位発表会に向けて準備を進めました。その中からグループ別、学年発表会を行いました。

Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School

## 2021年 (2年生)

本館1階-BIOTOPIAを専門に、様々な分野の展示を見学し、実際に体験してみました。

本館1階-BIOTOPIAを専門に、様々な分野の展示を見学し、実際に体験してみました。

本館1階-BIOTOPIAを専門に、様々な分野の展示を見学し、実際に体験してみました。

本館1階-BIOTOPIAを専門に、様々な分野の展示を見学し、実際に体験してみました。

本館1階-BIOTOPIAを専門に、様々な分野の展示を見学し、実際に体験してみました。

本館1階-BIOTOPIAを専門に、様々な分野の展示を見学し、実際に体験してみました。

Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School

## 2021年 (1年生)

自分たちが探究した成果を教員のためにプレゼンテーション技能の向上に努めた。

自分たちが探究した成果を教員のためにプレゼンテーション技能の向上に努めた。

自分たちが探究した成果を教員のためにプレゼンテーション技能の向上に努めた。

自分たちが探究した成果を教員のためにプレゼンテーション技能の向上に努めた。

自分たちが探究した成果を教員のためにプレゼンテーション技能の向上に努めた。

自分たちが探究した成果を教員のためにプレゼンテーション技能の向上に努めた。

Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School

# 2022 新展開! 「探究リレー」

- 1 生徒の新たな一面を引き出す
- 2 先輩たちの「提言」を「実現」へ
- 3 地域へのコミットメント

**成果**

先輩たちが3年間を通して行ってきた探究活動の成果を0に戻すのではなく、自分たちの探究を行いながら、先輩たちの成果を「実現」するための探究活動も行っています。

**探究のバトンをつなぐ。**

サステイナブルな探求を目指します。

Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School Inquiry class at Yamakita High School

本報告書は、文部科学省の委託事業として、神奈川県教育委員会が実施した令和3年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製・転載・引用等には文部科学省及び神奈川県教育委員会の承認手続きが必要です。

令和3年度

文部科学省事業

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

研究開発実施報告書（第3年度）

令和4年5月発行

発行者 神奈川県立山北高等学校

〒258-0111 神奈川県足柄上郡山北町向原 2370

Phone 0465-75-0828 Fax 0465-75-1770

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/yamakita-h/>